

平成29年度 公益財団法人よこはまユース事業報告

I 事業概要

平成29年度は、「公益財団法人 よこはまユース」に移行して7年度目となり、これまでの6年度間で積み上げた実績と様々な経験を活かした、新たな取り組みが求められるとともに、「経営方針(平成25～29年度)」の総仕上げの年度であり、計画目標の達成が問われる一年でした。

すべての青少年が周囲の人々から見守られ、人のつながりのなかで成長していくことができる地域社会を目指し、青少年育成に取り組む様々な関係機関や地域と連携した人材の育成、養育環境に課題を抱える青少年が安心して過ごすことのできる環境の整備など、経営方針が掲げた目標達成に向け事業を推進しました。

また平成29年度は、本部事務所の移転(7月)及び、関内ホール長寿命化改修工事に伴う青少年育成センターの代替施設への移転と運営(12月から約10か月間の予定)に取り組みました。

1 重点方針と主な事業

(1) 地域と取り組む青少年育成

地域を対象とした研修や講座、地域と連携したプログラム開発などを通じ、青少年を支える輪を広げ、「青少年を見守り・育てる地域づくり」に取り組みました。

【主な事業】

- ◆「知っておきたい!子ども・若者どこでも講座」や「子ども・若者エンパワメントセミナー」など、地域を対象とした研修や啓発事業
- ◆地域と連携した野島青少年研修センターのプログラム開発
- ◆活動相談(「あおばこどもシステムネットワーク会議」、「にこまち青少年部会」への参加 他)
- ◆企業の社会貢献プログラムの支援・推進(横浜南央ロータリークラブ、ライオンズクラブ 330-B 他)

(2) 健全育成の方法や資源を活用した青少年の潜在的リスク解消・軽減及び自立支援

「貧困」など青少年の自立を阻害する様々なリスクを解消・軽減するため、学校や地域・行政と連携し、社会全体で青少年を支えるしくみづくりに取り組みました。

【主な事業】

- ◆学校内での居場所づくり支援(中退や進路未定などのリスクを抱える高校生への支援—横浜総合高校「ようこそカフェ」)
- ◆課題解決に結び付けることができる人材の育成と支援
- ◆寄り添い型生活支援事業(かもん未来塾の運営)
- ◆困難を抱える青少年のための体験活動支援(宿泊キャンプの実施 他)

2 基本方針と主な事業

(1) 青少年を見守る地域づくりと人材育成

青少年を見守り・支える人材の育成や地域が取り組む青少年育成活動の支援を通じ、青少年が育まれる地域づくりを推進しました。

【主な事業】

- ◆ 青少年育成センターの運営（青少年育成センター重点目標と主な事業 参照）
- ◆ 地域の青少年育成活動の推進・支援、活動相談
- ◆ 野島青少年研修センター地域交流事業

【青少年育成センター重点目標と主な事業】

地域で青少年育成に励む人材の養成を行い、青少年を見守り・育てる地域づくりを推進しました。併せて、青少年活動に対する意欲の向上や活動のヒントが得られる機会を提供し、指導者や支援者のネットワーク推進に取り組みました。

また、関内ホール長寿命化改修工事に伴い、代替施設へ移転し運営を開始しました。

※代替施設での運営期間：平成29年12月～平成30年9月（予定）

① 諸室や物品の貸出と利用者サービス

施設稼働率75%以上を目標に、諸室の利用促進に取り組みました。（年間稼働率：62.1%）

- 活動支援事業（印刷室の運営、ロッカーの貸出など）※代替施設では未実施
- 移転後の利用促進（利用者への代替施設に関する情報提供 他）

② 人材育成事業、ネットワークの推進

課題解決に結び付けることができる人材養成をはじめとして、スキル等を学ぶ研修・講座やネットワークづくりを目的とした事業を実施しました。

- 青少年の居場所づくり講座、スキルアップ研修
- ユースコーディネーター養成研修の実施及び認定制度に向けた取り組み
- よこはまユースゼミ、青少年活動団体のための大交流会
- ユースチャレンジ「きずな夏祭り」

③ 青少年育成活動に関する相談・情報提供

相談事業や情報発信を通じて青少年育成活動を支援しました。また、青少年団体（活動）と市民とをつなぐ、青少年育成活動コーディネートを行いました。

- 青少年活動にかかる相談窓口の開設と情報コーナーの運営

(2) 体験機会の提供

地域や関係団体等と連携した、様々な体験活動や社会参加の機会を提供することで、青少年の自主性や主体性を育みました。

【主な事業】

- ◆ 青少年の体験活動の推進（「三陸漁業体験」他）
- ◆ 自然環境や社会資源を活用した体験活動プログラムの実施（「開港祭」体験ブース出展、高校生水源林ボランティア、野島青少年研修センターの体験プログラム 他）

(3) 青少年の居場所の支援

青少年の「居場所づくり」に取り組む地域活動を支援し、青少年が様々な出会いや体験を通じ育まれる地域づくりを推進しました。

【主な事業】

- ◆地域活動支援事業（磯子区岡村地区、神奈川区神大寺地区、緑区十日市場地区における活動推進と支援）
- ◆青少年の居場所づくり講座
- ◆横浜総合高校「ようこそカフェ」

(4) 野島青少年研修センター訓練プログラム開発、柔軟な施設利用予約や利用者サービス向上

青少年が集団宿泊体験や自然体験など、様々な体験を通じて成長できるようプログラムの開発・提供や、活動ニーズに対応した運営を行うことで団体活動が充実するよう取り組みました。

【重点目標と主な事業】

集団宿泊体験や自然体験など、体験活動を通じて青少年が成長できるプログラムを提供しました。また、利用団体に合った活動モデルを提供・発信することで、センターの利用を広く周知するほか、貸出物品等を充実させるなど、柔軟なニーズ対応により施設利用の拡充に取り組みました。

①利用者のニーズに応じた体験活動の提供

青少年が体験活動を通じて、自己肯定感や自己選択力を育むことができるよう、団体や地域住民と連携し、安全かつ効果的な体験活動プログラムを提供しました。

- 自然体験活動を活かしたプログラムの開発と提供（「レジンペレット」集め 他）
- 地域産業との連携事業実施（「プレミアム探検ツアー」（横浜シーサイドライン））
- 地域と連携した防災プログラム（「防災キャンプ」）

②利用環境及び研修プログラム支援の充実

情報提供や事前相談、活動当日の支援など、利用団体の主体的な活動を側面的に支援しました。また、より多くの青少年・指導者に体験活動や研修の機会を提供するため、稼働率75%以上を目標に、利用者の拡大に取り組みました。（年間稼働率：84.3%）

- 利用促進パンフレットの作成、利用の手引き、体験プログラム集の発行
- 観察セットなど野外プログラム用教材の貸出

(5) 放課後キッズクラブ事業等、放課後事業への取り組み

すべての子どもたちを視野に入れ、「遊びの場」と「生活の場」を兼ね備えた安全で快適な放課後の居場所づくりを推進しました。また、運営ノウハウを活かした、放課後事業に携わる人材育成に取り組みました。

【主な事業】

- ◆放課後キッズクラブの充実（保護者・学校・地域との連携 他）
- ◆放課後キッズクラブの安定的運営に向けた相談、助言（都筑区放課後キッズクラブ運営NPO法人設立支援事業 他）
- ◆放課後3事業従事スタッフの人材育成（「横浜市放課後児童育成事業人材育成研修」 他）

(6) 居場所、交流機能の新たな展開（青少年交流・活動支援スペース「さくらリビング」の運営）

青少年が社会につながり、社会で生きる力を育むため、青少年の社会参加や社会参画を目的とした体験や交流活動などを実施しました。

【重点目標と主な事業】

青少年が様々な人、考え方、体験との出会いを通じて社会とつながる機会を作りました。また、地域や企業と連携して青少年が社会に目を向ける機会として、ボランティア活動や就労体験など主に中・高校生を対象とした事業に取り組みました。

① 青少年の交流・体験活動の充実

気軽に集えるフリースペースの運営、ダンスや音楽を楽しむスタジオ等の貸出を通じ、青少年の自主的な活動を支援するとともに、多様な自己表現やボランティア活動などの体験機会を提供することで、青少年の可能性を引き出し、仲間とともに育ち合う関係性を実感できる場作りに取り組みました。

- フリースペースの運営とロビーワークの実施
- 青少年チャレンジ事業（「英検3級チャレンジ」「バンドレベルアップ講座」他）
- 「居場所」のつながりを通じた困難を抱える青少年の活動支援事業（学習支援「みはらし教室」、青少年支援団体の活動支援他）

② 青少年の社会体験活動の推進

ボランティア活動や就労体験など、年齢等に応じた社会参加プログラムの充実を図ることで、青少年の社会参加・社会参画を推進しました。

- 若者同士の交流促進のための“若者コミュニティ”の構築
- 青少年ボランティアの推進、青少年委員会の運営（夏期ボランティア体験、地域清掃 他）
- 社会体験・就労体験事業（港湾見学、野菜販売 他）

(7) 組織・経営基盤強化（人材育成、寄附金の拡充、企業との連携 他）

職員の人材育成、寄附金の募集など組織や経営基盤の強化に取り組みました。

【主な事業】

- ◆ 賛助会員及び一般寄附者の拡充（事業参加者等への募集案内の配布 他）
- ◆ 寄附金拡充を目的とした収益事業（第57回爆笑！濱っ子寄席）
- ◆ 職員の人材育成（新採用研修、外部研修への職員派遣、研究会や学会等への職員派遣、市コンプライアンス研修への職員派遣 他）

(8) 情報発信、広報・宣伝力の強化

「よこはまユースレター」の発行、事業報告や成果を速やかに周知・広報し、多くの市民や青少年に法人をアピールし、青少年育成活動への関心と参加を喚起しました。

また、本部や各施設事業の広報力の強化に取り組みました。

【主な事業】

- ◆ 広報・PR（ユースレターの発行、ホームページの運営管理）
- ◆ 新法人パンフレット作成に向けた検討 他

3 事業の柱と公益目的事業区分

当法人の定款に定める事業の柱と公益目的事業区分は次の通りです。

【事業の柱】

- A：青少年活動を支援する事業
- B：青少年を支える人材を育成する事業
- C：青少年に体験機会や活動の場を提供する事業
- D：その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

【公益目的事業区分】

- あ：施設の貸与
- い：講座、セミナー、育成
- う：体験活動等
- え：相談、助言
- お：調査、資料収集

A：青少年活動を支援する事業

あ：施設の貸与

この事業は、青少年育成活動を展開するための安全で効果的な場を提供することで、青少年の育成に寄与することを目的としています。指導者・育成者による打合せや準備、活動の場としての施設の提供及び、青少年が主体的に関わることができる体験活動や宿泊プログラムがより充実するよう、相談や情報提供による支援を行いました。

なお、施設の特徴や利用案内に関しては、施設パンフレットやホームページに情報を掲載し幅広く周知しました。

【主な事業・取り組み】

- 青少年の自主的な活動、交流スペースの運営（活動支援）
- 青少年の指導者・育成者の活動拠点の運営（青少年育成センターの諸室及び物品の貸出）
- 青少年の集団宿泊体験活動拠点の運営（野島青少年研修センターの施設・設備貸出）

え：相談、助言

この事業は、青少年と大人が共に育つ環境を醸成することで青少年の育成に寄与することを目的としています。

青少年が事業に関わることで自らが学び・育つ機会を幅広く提供するために、青少年に対する相談・助言、情報提供、コーディネート、研修講師の派遣・紹介、研修や地域活動のプランニング等、多様な支援を行いました。

【主な事業・取り組み】

- 放課後キッズクラブの安定的な運営に向けた相談・助言
- ノウハウ提供による活動支援
- 青少年の居場所・地域活動支援事業（地域の青少年育成活動の推進や支援 他）
- 活動の相談・助言（地域団体等へのプランニングやCSRの推進 他）
- 「知っておきたい！子ども・若者どこでも講座」

- 相談支援事業（青少年に対する日常的な相談支援 他）
- 相談・コーディネート、情報提供（青少年育成にかかる相談、情報提供 他）

お：調査、資料収集

この事業は、青少年活動に活用できる資源の調査や事業効果を検証し、青少年活動プログラム開発のための基礎資料としての活用や団体及び教育機関に提供することで、青少年の育成に寄与することを目的としています。

横浜市内で行われているNPOや企業の社会貢献活動等と青少年育成活動や学校の体験学習等が連携することで、青少年が自ら学び育つことができる活動領域の拡大や活動機会を充実するため、市内の活動の調査、新規事業の開発を行いました。

【主な事業・取り組み】

- 調査・研究事業（青少年育成事業の支援、事業成果等の把握や情報発信 他）
- 体験プログラムの調査研究（困難を抱える青少年への体験プログラムのニーズ調査 他）

B：青少年を支える人材を育成する事業

い：講座、セミナー、育成

この事業は、青少年を支える人材や活動の核となる青少年を養成することで、青少年と大人が共に育つ環境を醸成し、青少年の育成に寄与することを目的としています。

青少年及び青少年育成に関する知識や技能を習得することで、青少年育成への理解を深め青少年育成活動の普及を推進し、青少年が自ら学び育つことができる機会の充実や自立支援に関わる人材を育成しました。具体的には、社会的な課題をはじめ青少年育成活動の実践から得た課題を基に、テーマを定め必要に応じ専門機関・団体等と連携し講座・研修を実施しました。

【主な事業・取り組み】

- 放課後3事業従事スタッフの人材育成、研修の充実
- 啓発事業（「子ども・若者エンパワメントセミナー」他）
- 青少年サポーター育成事業
- 課題解決に結び付けることができる人材の育成と支援（ユースコーディネーターの養成）
- 人材のすそ野を広げるための講座・研修（スキルアップ研修 他）
- 人材育成のためのネットワークの形成（「よこはまユースゼミ」他）
- 活動充実のための研修事業（ステップアップ・専門研修）
- 青少年育成活動の担い手の養成
- 青少年指導者育成者研修（指導者講習会）
- ボランティアの養成（野島体験プログラムボランティアの支援）

C：青少年に体験機会や活動の場を提供する事業

う：体験活動等

この事業は、青少年が学校や家庭では得にくい多様な体験活動に参加することで、青少年の育成に寄与することを目的としています。

青少年が体験を通じ自ら感じ考えることで学び育つことができる機会として、就労体験、社会体験、自然体験、集団宿泊体験等の事業を企画・実施しました。

具体的には、お互いに協力して目標を達成していく過程で青少年が社会性や協調性を育み自ら成長していきことができるよう、集団や個人の特性に応じて活動領域や手法を変え体験活動を実施するとともに、青少年事業の研究・調査・開発を行いました。

併せて、放課後キッズクラブを運営し、小学生が集団での遊びや体験活動を通じ、自ら学び育つことができる機会を提供しました。

【主な事業・取り組み】

- 放課後キッズクラブ運営（人材育成、インターンシップ 他）
- 自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供（道志村と連携した社会体験・交流プログラム、教育機関との連携事業 他）
- 道志村と連携した社会体験・交流プログラムの実施
- 寄り添い型生活支援事業（「かもん未来塾」の運営）
- 青少年の交流・体験事業（交流促進事業 他）
- 社会参加プログラム（青少年ボランティア事業 他）
- 困難を抱える青少年の支援事業（小中高生を対象とした居場所づくり 他）
- 体験プログラムの提供（自然環境を活かしたプログラム開発・提供 他）
- 市民活動団体と協働した体験プログラムの実施（「オールクリーン野島ビーチ」他）
- 困難を抱える青少年のための体験活動支援（宿泊キャンプの実施 他）
- 地域交流事業（地域住民と連携した文化活動教室の実施）

D：その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

この事業は、収益事業及び法人運営のための取り組みです。

①寄附金募集事業

当法人の取り組みを広く市民に周知し理解を深め協力を得ることを目的として、収益事業の実施、寄附金の募集・募金活動、賛助会員及び一般寄附者の拡充のための事業を行いました。

【主な事業・取り組み】

- 賛助会員及び一般寄附者の拡充（会員募集事業 他）
- 寄附金拡充を目的とした収益事業（「爆笑！濱っ子寄席」の実施）

②事務局運営

公益財団法人としての使命を果たすとともに、安定して継続的に運営できるよう、職員の人材育成やガバナンスの強化を推進しました。

【主な事業・取り組み】

- 法人の広報・PR（よこはまニュースレターの発行 他）
- 職員の人材育成
- 評議員会、理事会の運営

II 事業体系表

担当部署	事業の柱	公益目的事業区分	事業名	
事業課	A 青少年活動を支援する事業	え 相談、助言	1 青少年の居場所・地域活動支援事業 2 活動の相談・助言 3 知っておきたい！子ども・若者どこでも講座	
		お 調査、資料収集	4 調査・研究事業	
	B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、育成	5 啓発事業 6 講師派遣・研修受託	
	C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	7 自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供 8 道志村と連携した社会体験・交流プログラム	
	青少年 交流・活動 支援スペース (さくらリビング)	A 青少年活動を支援する事業	あ 施設の貸与	1 活動支援事業
		B 青少年を支える人材を育成する事業	え 相談、助言	2 相談支援事業
い 講座、セミナー、育成			3 青少年サポーター育成事業	
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	4 青少年の交流・体験事業 5 社会参加プログラム 6 困難を抱える青少年の支援事業		
かもん未来塾	C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	1 寄り添い型生活支援事業	
キッズ運営課	A 青少年活動を支援する事業	え 相談、助言	1 放課後キッズクラブの安定的な運営に向けた相談、助言 2 はまっ子・キッズ交流事業 3 ノウハウ提供による活動支援	
	B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、育成	4 放課後3事業従事スタッフの人材育成、研修の充実	
	C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	5 放課後キッズクラブ運営	
総務課	D その他、この法人の目的を達成するために必要な事業		1 賛助会員及び一般寄附者の拡充 2 寄附金拡充を目的とした収益事業 3 法人の広報・PR 4 職員の人材育成	
青少年育成センター	A 青少年活動を支援する事業	あ 施設の貸与	1 諸室及び物品の貸出	
		え 相談、助言	2 相談・コーディネート 3 情報提供	
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、育成	4 課題解決に結び付けることができる人材の育成と支援 5 人材のすそ野を広げるための講座・研修 6 人材育成のためのネットワークの形成 7 活動充実のための研修事業 8 青少年育成活動の担い手の養成		
野島青少年研修センター	A 青少年活動を支援する事業	あ 施設の貸与	1 施設・設備貸出事業 2 利用促進事業	
		お 調査、資料収集	3 体験プログラムの調査研究	
	B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、育成	4 青少年指導者・育成者研修 5 ボランティアの養成	
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	6 体験プログラムの提供 7 市民活動団体と協働した体験プログラム 8 困難を抱える青少年のための体験活動の支援 9 地域交流事業		

平成29年度 公益財団法人よこはまユース 事業評価

事業の柱 ／ 公益目的 事業区分		課・係・施設別評価							事業 区分別 総合評価 得点率	総合評価コメント	
		事業課	さくら リビング	かもん 未来塾	キッズ 運営課	総務課	育成C	野島C			
A 青少年活 動を支援 する事業	あ 施設の 貸与		a 70%					c 40%	a 70%	b 63%	<ul style="list-style-type: none"> 育成センターは、代替施設での稼働率が減少したが、関内ホールに戻った後に従前の稼働率に復帰できるように、広報や講座・研修等の事業展開を工夫し、利用促進に努めたい。 野島青少年研修センターは、小学校の体験学習の利用人数が大幅な増となった。 さくらリビングは、青少年が学校や地域、世代を超えた人々と出会い、交わり、繋がるきっかけとなる居場所として、青少年の仲間作りが促進されている。
	え 相談 助言	a 73%	b 65%		b 53%			b 53%		b 61%	<ul style="list-style-type: none"> 企業の社会貢献活動支援は、企業の社会貢献活動を青少年の課題解決に結び付け、新たな支援活動や支援方法の仕組みをつくることができた。 高校内カフェの運営は、資金の確保ができ、自立した運営に向けた準備・計画を立てることができた。
	お 調査 資料 収集	b 60%							b 55%		b 58%
B 青少年を 支える人 材を育成 する事業	い 講座 セミ ナー 育成	a 70%	b 65%		b 65%			b 59%	b 68%	b 64%	<ul style="list-style-type: none"> 「横浜市放課後児童育成事業人材育成研修」は、これまでの受託経験を活かして、法人の中間支援機能として人材育成の役割を担った。 野島青少年研修センターでの指導者・育成者対象講習会は、講師の知識と経験、研修センターの特色を活かした内容となっている。
C 青少年に 体験機会 や活動の 場を提供 する事業	う 体験 活動等	b 68%	b 67%	a 80%	b 65%				b 68%	b 68%	<ul style="list-style-type: none"> 南央ロータリークラブとの高校生キャリア支援プログラム、横浜すばいすとの食育プログラムなど新たな共同プログラムを展開することができた。 さくらリビングでは、インターンシップに参加した高校生が参加をきっかけにして自信を持ち、積極的に他の事業に参加したり、他者とのコミュニケーションを図ったりするようになった。
D その他、この法人の 目的を達成するために 必要な事業							b 58%			b 58%	<ul style="list-style-type: none"> 法人の弱点である情報発信・広報を、ホームページ、SNS、紙媒体との役割分担を行い、SNSの試行的導入を進める。
課・係・施設別 総合評価 上段：総合評価 下段：得点率		b 69%	b 67%	a 80%	b 58%	b 58%		b 55%	b 67%	b 63%	<ul style="list-style-type: none"> 青少年の交流や活動、相談などを促進するためには、青少年サポーターの取組みは有効である。 関内ホール復帰後を視野に利用促進を進め、育成センターの役割を明確にしながら、これまでの取組みに捉われない運営を考える。 調査・研究事業での青少年関係の情報収集・発信、データ化の取組みは、横浜市の青少年施策への提言や地域活動への助言やコーディネート等を行う際に大変有効だと考える。 「よこはまユースゼミ」は、課題の共有、意見交換などを行うネットワークづくりを事業目的としているが、意見交換は達成できたが、研修後の自主運営につながるネットワークの構築に至らなかった。事業の目的を再確認して、テーマ設定や広報、事業内容を再構築する。 青少年とかかわるボランティアの機会を提供することは、青少年ボランティア自身が成長することにつながるから、引き続き、高校・大学へのボランティアの募集を図り、より多くの青少年ボランティアの活動を支援して行く。 法人の収益事業として収益（寄附金）の増額を図るため、会員や寄附金増の取り組みを今後とも行っていくが、寄附金募集の取り組みの手法などについて検討する必要がある。
総合評価ランク	s=90%以上 a=90%未満～70%以上 b=70%未満～50%以上 c=50%未満～30%以上 d=30%未満							得点率 (%)	事業区分評価点合計 ÷ 事業区分数 × 20点		
評価点	評価委員が事業区分毎に評価した合計点 【評価委員】 常務理事、業務執行理事、課長2人							5点=目標を大きく上回る成果、特筆すべき又は顕著な成果があった 4点=目標以上の成果があった 3点=目標を達成できた 2点=目標をやや下回った 1点=目標に届かず、改善が必要 0点=中止、未実施			

平成29年度 公益財団法人よこはまユース 事業評価

事業課

※次年度方針 ①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 ／ 公益目的事業区分		個別事業名(含む全体)	上段:総合評価 中段:得点率 下段:次年度方針	事業評価委員会 評価・助言・指示内容等
A 青少年活 動を支援 する事業	え 相談 助言	青少年の居場所・地域活動支援事業 ・磯子岡村地区、神奈川区神大寺地 区、十日市場中学校地域交流事業 ・学校内での居場所づくり支援	a 80% ①	・磯子区岡村地区では、活動継続に向けて資金確保の取組みが始められた。 ・神奈川区神大寺地区では、補助金交付終了後も活動への側面的な支援依頼を受けている。 ・高校内カフェの運営は、資金の確保ができ、自立した運営に向けた準備・計画を立てることができた。
		活動の相談・助言 ・活動相談（プランニング、助言） ・CSR活動の支援・推進	a 75% ①	・企業の社会貢献活動支援は、企業の社会貢献活動をこども・青少年の課題解決に結び付け、新たな支援活動や支援方法の仕組みをつくることができた。
		知っておきたい！ 子ども・若者どこでも講座	b 65% ①	・効果的な広報により、新たな利用団体が増えた。 ・青少年を取り巻く現状や課題の啓発を目的に実施しているが、スキル研修的な依頼も多く、講座の範囲が曖昧になってきていることから、講座の利用方法やテーマ設定、講師の選定や講師謝金等について見直しが必要となっている。
	お 調査 資料 収集	調査・研究事業 ・青少年育成事業の支援、事業成果 等の把握・情報発信 ・YOKOHAMA EYE'S 発行	b 60% ①	・青少年期の体験の度合いと成人後の社会参加や社会性の関係性に関して、行政や大学、専門家等と連携してインターネットアンケート調査を行った。調査結果は、法人の事業に活用するとともに、こども青少年局が行う青少年の地域活動拠点を展開するための基礎資料として活用された。
B 青少年を 支える人 材を育成 する事業	い 講座 セミナー 育成	啓発事業 ・子ども・若者エンパワメントセミ ナー ・事例研究会・勉強会の開催	a 70% ②	・エンパワメントセミナーは、「知っておきたい！子ども・若者どこでも講座」実施団体などからのヒヤリングを基にテーマ設定したことから、参加者から高い満足度を得ている。 ・事例研究・勉強会は、ネットワークの推進を目的に実施したが、広がりが見られなかったことから、あり方を検討する必要がある。
		講師派遣・研修受託	a 70% ②	・地域におけるボランティア活動支援、社会貢献活動の支援の一環として、人材育成を目的に講師を派遣した。 ・地域の支援者等に、支援に必要な専門スキルの向上や支援者同士の連携手法を学ぶ研修を横浜市から受託実施した。
C 青少年に 体験機会 や活動の 場を提供 する事業	う 体験 活動等	自然・社会体験プログラム開発及び 体験機会の提供 ・団体との連携事業 ・教育機関との連携事業	a 75% ②	・南央ロータリークラブとの高校生のキャリア支援プログラム、横浜すばいすとの食育プログラムなど新たな共同プログラムを展開することができた。 ・サイエンスプログラムでは、企画運営面を高校生が主体となって事業を進めることで、高校生の社会参加の機会、参加する小中学生には科学体験の機会を提供することができた。
		道志村と連携した社会体験・交流プログラム	b 60% ①	・道志の児童たちが余裕を持って行動・生活できるようプログラムの見直しを行った結果、ゆとりを持って学習することができた。
経営業務姿勢			b 69% ①・②	・磯子区岡村地区、神奈川区神大寺地区の居場所支援においては、相談助言により資金確保や運営体制、事業内容を見直すなど、自立に向けた団体自身の活動が始まっている。 ・どこでも講座は、講座のあり方、方向性を検討する必要がある。 ・調査・研究事業での青少年関係の情報収集や、発信、データ化の取組みは、横浜市の青少年施策への提言や地域活動への助言やコーディネート等を行う際に大変有効だと考える。

平成29年度 公益財団法人よこはまユース 事業評価

青少年の交流・活動支援スペース（さくらリビング）

※次年度方針 ①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 ／ 公益目的事業区分		個別事業名(含む全体)	上段:総合評価 中段:得点率 下段:次年度方針	事業評価委員会 評価・助言・指示内容等
A 青少年 活動を 支援す る事業	あ 施設の 貸与	活動支援事業 ・フリースペースの運営 ・諸室の貸出 ・利用促進	a 70% ①	・青少年が学校や地域、世代を超えた人々と出会い、交わり、繋がるきっかけとなる居場所として、青少年の仲間作りが促進されている。 ・フリースペース；青少年利用者11,196人（28年度：8,831人）、諸室の貸出；青少年利用者24,517人、稼働率67.3%（28年度：22,343人、稼働率60.8%）ともに利用が伸びている。
	え 相談 助言	相談支援事業 ・日常的な相談支援事業 ・個別相談事業 ・啓発事業(相談カフェ、保護者セミナー等)	b 65% ①	・ロビーや受付での日常的な会話（傾聴）を通して青少年の悩みや困難さを受け止め、家庭や学校、活動などの具体的な個別相談件数は99件（相談・傾聴件数224件）となっている。
B 青少年を 支える人 材を育成 する事業	い 講座 セミナー 育成	青少年サポーター育成事業	b 65% ①	・青少年が「相談しやすい」環境を作るため、大学生以上の青少年サポーター（ボランティア）を育成し、地域のボランティア活動団体との連携事業等に青少年サポーターの活動人数が増加している。
C 青少年に 体験機会 や活動の 場を提供 する事業	う 体験 活動等	青少年の交流・体験事業 ・交流促進事業 ・チャレンジ事業	a 70% ②	・ロビーに集う青少年が交流促進事業を企画するなど、青少年の力を活用しながら運営ができています。 ・チャレンジ事業では、中学生の英検受験義務化の流れを受けて、英検チャレンジなどニーズに沿った企画が実施できた。
		社会参加プログラム ・社会体験・就労体験活動 ・若者コミュニティー事業 ・青少年ボランティア事業 ・青少年委員会の運営	a 70% ②	・社会体験を通して、青少年が社会や仕事について知り、将来を考えるきっかけとなる体験を提供しているが、社会見学ツアー（社会体験・就労体験活動）参加者が定員に達しなかったことから、広報のあり方や実施時期などの再検討を行う。 ・インターンシップに参加した高校生が参加をきっかけにして自信を持ち、積極的に他の事業に参加したり、他者ともコミュニケーションを図るようになった。
		困難を抱える青少年の支援事業 ・小中学生を対象とした居場所づくり	b 60% ②	・小中学生が居場所での繋がりを通して、潜在的な課題やリスクを抱える青少年の支援となっている。 ・個別支援が必要な青少年の貴重な活動の場となっている。
		経営業務姿勢	b 67% ①・②	・青少年のニーズや悩み、課題を直接把握することができる場を運営することは、法人にとって有意義である。 ・専門的な支援を要する相談に対して、適切な支援が行えるよう、専門機関との連携や職員の育成に努める。 ・青少年の交流や活動、相談などを促進するためには、青少年サポーターの取組みは有効である。 ・青少年に体験機会や活動の場を提供する事業では、社会参加プログラムに重点を置いた事業展開を検討する。

かもん未来塾

※次年度方針 ①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 ／ 公益目的事業区分		個別事業名(含む全体)	上段:総合評価 中段:得点率 下段:次年度方針	事業評価委員会 評価・助言・指示内容等
C 青少年に 体験機会 や活動の 場を提供 する事業	う 体験 活動等	寄り添い型 生活支援事業	a 80% ①	・スタッフ間での情報共有を徹底し、支援の効率化を図り、利用者に学習面・生活面における習慣の定着が図られ、事業の効果が上がった。 ・西区役所のケースワーカーや教育支援専門員との情報共有をに日常的に行い、継続的な協力関係が維持できている。

平成29年度 公益財団法人よこはまユース 事業評価

キッズ運営課

※次年度方針 ①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 ／ 公益目的事業区分		個別事業名(含む全体)	上段:総合評価 中段:得点率 下段:次年度方針	事業評価委員会 評価・助言・指示内容等
A 青少年活動を支援する事業	え 相談助言	放課後キッズクラブの安定的な運営に向けた相談、助言	b 60% ①	・都筑区内の地域立ち上げ型NPO法人によるはまっ子から放課後キッズクラブへの円滑な移行に向けた相談、助言を行い、放課後キッズクラブの運営を支援している。
		はまっ子キッズ交流事業	b 55% ⑥	・放課後キッズクラブの現場実習を兼ねて、はまっ子ふれあいスクールと放課後キッズクラブの運営内容の違いや課題を確認し、不安軽減につなげているが、横浜市放課後児童育成事業人材育成研修項目に、放課後キッズクラブの一日の流れを実際の活動現場で学ぶ実習が組まれていることから、法人独自の事業としては終了する。
		ノウハウ提供による活動支援	c 45% ⑥	・放課後キッズクラブ全校転換が進んでいることから、ニーズも減少している。今後は放課後キッズクラブの安定的な運営に向けた相談・助言事業に統合する。
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座セミナー育成	放課後3事業従事スタッフの人材育成、研修の充実 ・横浜市放課後児童育成事業人材育成研修(受託事業) ・放課後事業"スタッフ力"アップ研修	b 65% ①・⑥	・「横浜市放課後児童育成事業人材育成研修」は、これまでの受託経験を活かして、法人の中間支援機能として人材育成の役割を担った。 ・放課後事業"スタッフ力"アップ研修は、横浜市が放課後3事業等の事業目的を達成するために必要な資質を備えた人材を育成するための「横浜市放課後児童育成事業人材育成研修」が充実していることから、法人独自の研修は終了する。
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	放課後キッズクラブ運営	b 65% ①	・26か所の放課後キッズクラブにおいて、評議会、保護者会を開催し、理解と協力を得ながら健全な運営に努めた。
経営業務姿勢			b 58% ①・⑥	・放課後3事業及び放課後児童健全育成事業の届け出事業所に従事する職員に対する「横浜市放課後児童育成事業人材育成研修」の充実、及び放課後キッズクラブへの全校転換が進んでいることから法人独自の研修事業等の見直しを行う。

総務課

※次年度方針 ①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 ／ 公益目的事業区分		個別事業名(含む全体)	上段:総合評価 中段:得点率 下段:次年度方針	事業評価委員会 評価・助言・指示内容等
D その他、この法人の目的を達成するために必要な事業		賛助会員及び一般寄附者の拡充 ・会員募集事業 ・新春のつどい	b 60% ①	・賛助会員の入退会管理では、3年間寄附行為がない会員の削除を行ったことにより、郵送に係る経費の削減等につながった。 ・寄附金募集では、法人の趣旨や寄附金の目的・使途の説明を丁寧に行うことで、会員以外からの寄附があった。
		寄附金拡充を目的とした収益事業 ・爆笑！濱っ子寄席	b 60% ①	・昨年度、共催事業者とのチケット販売の連携が機能しなかったためチケット販売数が減となったことについては、共催事業のチケット販売数の配分の見直しと連携を密に取り合うなど販売方法の見直しを行い、円滑な事業展開を行うことができた。
		法人の広報・PR	b 50% ②	・法人の弱点である情報発信・広報を、ホームページ、SNS、紙媒体との役割分担を行い、SNSの試行的導入を進める。
		職員の人材育成	b 60% ①	・階層別、役割別に、法人が実施する研修や外部研修に職員が参加することで人材育成に取組んでいる。
経営業務姿勢			b 58% ①・②	・法人の収益事業として収益(寄附金)の増額を図るため、会員や寄附金増の取組みを今後とも行っていか、寄附金募集の取組みの手法などについて検討する必要がある。

平成29年度 公益財団法人よこはまユース 事業評価

横浜市青少年育成センター

※次年度方針 ①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 公益目的事業区分		個別事業名(含む全体)	上段:総合評価 中段:得点率 下段:次年度方針	事業評価委員会 評価・助言・指示内容等
A 青少年活動を支援する事業	あ 施設の貸与	諸室及び物品の貸出	c 40% ②	・代替施設での稼働率が減少したが、関内ホールに戻った後に従前の稼働率に復帰できるように、広報や講座・研修等の事業展開を工夫し、利用促進に努めたい。 ・青少年団体のニーズや特性に合わせた支援内容を検討し、育成センターの新たな活用方法を検討する。
	え 相談助言	相談・コーディネート ・指導者・支援者の相談対応 ・ボランティア活動や青少年育成に関する相談・コーディネート	b 50% ②	・専門的な相談機関が増えたことにより、相談件数は減少傾向にある。今後は、市民に受け入れられるよう積極的なPRや青少年関連の相談窓口としての対象や相談方法を整理する必要がある。 ・相談窓口として、電話相談以外にメールやSNSを活用を視野に入れた取組みを検討する。
		情報提供 ・情報コーナーの運営 ・青少年関係情報を発信(情報収集・提供)	b 55% ②	・ボランティア活動情報や施策動向、統計など青少年に関する情報を収集しHPで情報発信している。HP更新回数達成率は85% (更新回数 週0.85回)。 ・情報発信が、情報を受け取る人にどのような内容の情報を発信していくのが明確となっていない。今後は、青少年関連のボランティアを希望する人や、青少年関係の団体を立ち上げる人等を対象とした情報を発信することを検討する。
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座セミナー育成	課題解決に結び付けることができる人材の育成と支援 ・ユース コーディネーターの養成 ・ユース コーディネーターの認定制度に向けた準備	b 60% ②	・青少年を取り巻く課題を正しく理解し青少年に寄り添うことができ、必要に応じて専門機関や社会資源とつなぐ人材を養成することで、青少年が見守られ、育まれる地域社会づくりを推進する事業として、育成センターの基幹事業である。 ・1年間連続する講座研修の流れをつくり、外部から見てより分かりやすい講座を目指す。 ・認定制度は、指定管理施設である育成センター事業とせず、法人事業として位置付けることで整理する。
		人材のすそ野を広げるための講座・研修 ・青少年の居場所づくり講座 ・スキルアップ研修	b 60% ②	・居場所づくり講座はPR不足により、参加者が定員の70%に止まった。 ・スキルアップ研修は、内容や講師の変更なく10年以上継続している。参加者も減少していることから、テーマや内容の検討を行う。
		人材育成のためのネットワーク形成 ・よこはまユースゼミ ・団体連携事業	b 55% ②	・「よこはまユースゼミ」は、課題の共有、意見交換などを行うネットワークづくりを事業目的としているが、意見交換は達成できたが、研修後の自主運営につながるネットワークの構築に至らなかった。 ・団体連携事業「大交流会」は共催事業として実施している。参加者から多かった「活動の情報を持ち帰りたい」との意見を反映させる内容を検討する。
		活動充実のための研修事業 ・ステップアップ研修 ・専門研修	b 60% ②	・「コーチング入門講座」のスキルアップ研修は、社会教育、青少年活動の関係者にとって、対象の理解を促し、自己実現を支援するための手法としての研修内容となっている。 ・専門研修は、スキルアップ研修との差別化を図り、事業の目的を明確にする必要がある。
		青少年育成活動の担い手の養成 ・ユースチャレンジ「きずな夏祭り」	b 60% ①	・育成センター(関内ホール)を会場として、青少年が地域活動に関心を持つきっかけを提供する事業として、横浜市市民局、資源循環局と共催で実施しているが、平成30年度は、関内ホールの休館に伴い、新たな会場に対応したプログラムを検討する。
		経営業務姿勢	b 55% ①・②	・関内ホール復帰後を視野に入れて、利用促進を進め、育成センターの役割を明確にしながら、これまでの取組みに捉われない運営を考える。 ・「よこはまユースゼミ」は、課題の共有、意見交換などを行うネットワークづくりを事業目的としているが、意見交換は達成できたが、研修後の自主運営につながるネットワークの構築に至らなかった。事業の目的を再確認して、テーマ設定や広報、事業内容を再構築する。

平成29年度 公益財団法人よこはまユース 事業評価

横浜市野島青少年研修センター

※次年度方針 ①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 ／ 公益目的事業区分		個別事業名(含む全体)	上段:総合評価 中段:得点率 下段:次年度方針	事業評価委員会 評価・助言・指示内容等
A 青少年活動を支援する事業	あ 施設の貸与	施設・設備貸出事業	a 75% ①	・小学校の体験学習の利用人数は大幅な増となった。 ・年間を通した地域連携事業の利用、新規の企業・団体の利用により、稼働率を伸ばすことができた。
		利用促進事業	b 65% ①	・利用促進を図るため、大学を対象として「横浜国立大学体育会部活広報誌」、企業を対象とした「ハマふれんどニュース」への広報活動を強化した。 ・中学校・高等学校のクラブ活動、生徒会活動での利用促進のための学校訪問、企業におけるサークルや研修活動への利用促進活動を実施したことにより、新たな新規利用があった。
	お 調査、資料収集	体験プログラムの調査研究 ・困難を抱える青少年に効果的な体験プログラムのニーズ調査	b 55% ①	・寄り添い型支援を運営する団体にヒアリングを行い、団体からは、他者との体験機会が少ない青少年にとって宿泊活動はハードルが高いとの意見があった。今後は、寄り添い型支援の体験活動をサポートするなどの支援することで、ヒアリング結果を反映していきたい。
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座セミナー育成	青少年指導者・育成者研修 ・指導者・育成者対象講習会 ・指導者・育成者への情報提供、相談対応	b 65% ②	・レクリエーション編は、定員に対して応募多数のため定員増を図った。一方、水辺の安全講習編は参加者が少なく、研修内容や参加費、応募チラシの内容等の工夫が必要である。 ・指導者・育成者対象講習会は講師の知識と経験、研修センターの特色を活かした内容となっている。
		ボランティアの養成	a 70% ①	・体験プログラム(カヌー、野島カリー、陶芸、海苔づくり)にシニアボランティアの継続的な参加が得られた。また、野島海岸の保全活動では、高校・大学のクラブ活動の一環としての参加が増加した。 ・職員が定期的に高校・大学を訪問し、学校とのネットワークの構築が進み、施設ボランティア『のじボラ』では継続的に参加する青年を増やすことができた。
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	体験プログラムの提供 ・施設特性を活かしたプログラムの開発と提供 ・自然環境を活かしたプログラムの開発と提供 ・地域産業との連携事業実施に向けた企画調整 ・防災キャンプ	a 70% ①	・自然環境を活かした体験プログラム(カヌー体験、干潟観察)等を利用する学校・団体が増えている。 ・体験学習校は、ほとんどが体験プログラムを取り入れている。 ・地域産業との連携事業では、(株)横浜シーサイドライン(主催)と連携して、研修センターでは体験できない体験を提供することができた。(株)横浜シーサイドラインとしても沿線の魅力をたくさんの人に知ってもらうという目的が達成できた。 ・防災キャンプは、小学生の参加が増えた。また、子どもたちが自主的な活動ができたことで、参加者の満足が上がった。
		市民活動団体と協働した体験プログラムの実施 ・自然体験キャンプの実施 ・自然・文化体験教室の実施 ・野島海岸の保全活動	b 65% ①	・自然体験キャンプは、様々な青少年と一緒に宿泊体験や自然体験を参加者とともに経験できる機会となっている。 ・自然体験・文化体験教室(日帰り)は、日頃体験できない体験を、野島周辺の自然の中で味わえる機会となっているが、新規教室の参加者が少ないことから広報に工夫が必要である。 ・野島海岸の保全活動は、積極的に中学・高校へ参加を呼びかけた結果、多数の参加数に結びつき、参加者は環境(海洋汚染問題)について考える機会となった。
		困難を抱える青少年のための体験活動の支援 ・不登校児童生徒の宿泊体験の実施 ・障がいのある児童生徒の宿泊体験の実施 ・困難を抱える青少年を対象とした宿泊キャンプの実施	a 70% ①	・「ハートフルスペース宿泊体験」(不登校児童生徒の宿泊体験)活動は、児童生徒が体験活動を通じて、自己をみつめ自信を回復し、コミュニケーション能力を育む機会となっている。 ・野島クリスマスキャンプ(個別支援学級の児童・生徒を対象とした宿泊体験キャンプ)は、募集方法、プログラム・活動時間の見直しにより、ボランティアが参加しやすく、実行委員会とボランティアが参加者より深くかかわることができ、子ども達が楽しく過ごせる等、保護者が安心できる場であることで満足度が高くなっている。 ・「わくわく体験キャンプ」(困難を抱える青少年を対象とした宿泊キャンプ)では、星空観察など新たな体験機会を提供できた。
		地域交流事業 ・地域住民と連携した事業の実施の実施 ・地域ネットワーク会議の開催 ・地域との防災への取組み	b 65% ①	・地域ネットワーク会議に参加したことをきっかけに、地域住民と連携した、陶芸教室、コグニサイズ体験の文化活動体験を実施し、地域住民との交流を深め、施設利用促進につながった。 ・「のじまオープンデー」は、金沢区を中心とする近隣地域住民を対象とした体験プログラムの提供、施設見学を行ったことで、これまで施設を利用したことがなかった地域の方々に施設の活動を知ってもらう機会となった。
		経營業務姿勢	b 67% ①・②	・職員間の情報の共有化を積極的に図り、施設を利用する青少年育成者・青少年育成団体の成長、育成に繋がるよう指導等のアドバイスを行う。 ・指導者・育成者への情報提供、相談対応については件数を集約するため、研修センターとしての施設利用の業務なのか否かの判断基準を設けること必要である。 ・青少年とかかわるボランティア活動をする機会を提供することは、青少年ボランティア自身が成長することにつながることから、引き続き、高校・大学へのボランティアの募集を図り、より多くの青少年ボランティアの活動を支援して行く。

Ⅲ 事業一覧

事業課

事業の柱	公益目的事業区分	事業名	内容	実施状況
A 青少年活動を支援する事業	え 相談、助言	青少年の居場所・地域活動支援事業	地域の団体や学校等による「居場所づくり」や「地域の青少年育成活動」を支援し、青少年の育ちを見守る地域づくりに取り組みました。 (1)地域の青少年育成活動の推進・支援 ・磯子区岡村地区／運営の相談・助言ほか ・神奈川区神大寺地区／活動継続に向けた助言 ・緑区十日市場地区／実行委員会へ参加、助言 (2)学校内での居場所づくり支援 ・横浜総合高校「ようこそカフェ」の実施	(1)活動支援 45回 (2)31回 参加生徒 6,236人
		活動の相談・助言	地域の団体等からの活動相談を通して活動のプランニングや助言を行いました。また、企業等の青少年育成をテーマとした社会貢献活動の推進・支援にも取り組みました。 (1)活動相談（プランニング・助言） にこまち会議（西区）、こどもシステム会議（青葉区）他 (2)CSR活動の支援・推進 横浜南央RC、ライオンズクラブ 他	(1) 相談58件 (2) 活動支援6件
		知っておきたい！ 子ども・若者どこでも講座	青少年指導員、民生委員・児童委員やPTA、学校および青少年育成団体等が実施する青少年課題（薬物、インターネット、性、非行、自立支援等）をテーマとした研修に講師を派遣・コーディネートすることで青少年理解や地域力の向上を図りました。	5月～3月 ／60回
	お 調査、資料収集	調査・研究事業	横浜市における青少年育成事業の充実を図るため、中間支援組織として実施団体の情報収集や活動の支援を行うとともに、事業成果等の発信を行いました。 (1)青少年育成事業の支援、事業成果等の把握・情報発信 社会体験活動のアンケート調査（インターネット調査） ※対象：市内の20～60代 調査件数：3,000件 (2)事業成果をまとめた報告書（「YOKOHAMA EYE'S」）の発行	(1)9月 (2)3月 1,200部
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、育成	啓発事業	市民向け啓発事業を通して、青少年の支援に関わる人材の育成を図るとともに、青少年分野での先進的な事例について関係機関・団体が学び、情報共有をする機会を提供しました。 (1)子ども・若者エンパワメントセミナー テーマ「自傷行為の対応と理解」講師：松本俊彦氏 (2)事例研究会・勉強会の開催 テーマ：寄り添い型事業、子どもの貧困	(1)7/11(火) 235人 (2) 11/24(金)24人 2/16(金)32人
		講師派遣・研修受託	青少年活動支援の一環として、人材育成を目的に講師派遣、研修の受託実施に取り組みました。 (1)講師派遣 (2)横浜子ども学習・生活支援四事業支援者向け研修（100人会議）	(1)23件 (2)3/10(土)89人
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供	横浜市内の自然環境や社会資源を活用した体験活動プログラムを実施しました。	
		団体との連携事業	青少年育成団体など市民団体や関係機関等と協働して、主に市内の活動資源を活かした体験活動の機会を提供しました。 (1)開港祭体験ブースの出展 (2)三陸漁業体験 (3)子どもの弁当コンクール (4)高校生水源林ボランティア	(1)6/1(木)、2(金) 1,200人 (2)7/27(木)～30(日) 11人 (3)通年 (4)8/1(火)77人
		教育機関との連携事業	市内の教育機関と協働・連携し、青少年が主体的に参加できるプログラムを実施しました。 小・中学生を対象とした体験プログラムの実施 ・横浜サイエンスフロンティア高校と連携 (1)天文教室 (2)化石教室 (3)プログラミングロボット教室	(1)11/19(日) (2)2/25(日) (3)3/11(日) 計118人
		道志村と連携した社会体験・交流プログラム	道志村と横浜市の友好交流を促進するために道志村児童の受入事業を実施しました。	10/5(木)～10/6(金) 小学生17人

青少年交流・活動支援スペース（さくらリビング）

事業の柱	公益目的事業区分	事業名	内容	実施状況
A 青少年活動を支援する事業	あ 施設の貸与	活動支援事業	青少年が気軽に安心して過ごすことのできる居場所を提供しました。また、利用者の要望に合わせた柔軟なサービスを提供しました。多くの青少年に居場所および活動の機会を提供するため、情報発信の充実に努めました。 (1)フリースペースの運営 (2)諸室の貸出 (3)利用促進（ツイッター配信、ティッシュ配布 他）	(1)青少年利用人数 11,196人 (2)青少年利用人数 24,517人 稼働率 67.3%
	え 相談、助言	相談支援事業	青少年に対する日常的な相談・助言、傾聴を行い、信頼関係を築くとともに、個別相談や啓発事業を行い必要かつ適切な支援に結び付けました。 (1)日常的な相談支援事業 (2)個別相談事業（進路相談、活動相談 他） (3)啓発事業（パネル展、保護者セミナー）	(1)傾聴件数 765件 (2)個別相談 99件 (3)パネル展77人 セミナー20人
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、育成	青少年サポーター育成事業	青少年が気軽に相談できる環境を作るため、スタッフと青少年とをつなぐ、大学生以上の青年ボランティアスタッフを養成しました。 (1)青少年サポーター事業 野毛ボラどこいき隊、みはらし教室などで活動 (2)シニアボランティア育成事業 文京区b-labの視察研修	(1)活動人数 延べ214人 (2)9/10(日) 7人
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	青少年の交流・体験事業	世代や地域を越えた多様な人との出会いや多様な体験プログラムを通して、青少年の交流機会や自己成長の機会を提供しました。 (1)交流促進事業 映画で英会話交流会、バリスタカフェ 他 (2)チャレンジ事業 英検3級チャレンジ、バンドレベルアップ講座 他	(1)7事業 延べ140人 (2)4事業 延べ86人
		社会参加プログラム	社会体験を通して、青少年が社会や仕事について知り、将来を考えるきっかけとなる体験機会を提供しました。 (1)社会体験・就労体験事業…港湾見学、野菜販売 (2)若者コミュニティ事業 (3)青少年ボランティア事業…夏期ボラ、地域清掃 他 (4)青少年委員会の運営…6月から月1回定例会	(1)2事業 延べ18人 (2)3事業 延べ37人 (3)5事業 延べ189人 (4)登録5人 延べ31人
		困難を抱える青少年の支援事業	「居場所」でのつながりを通して、潜在的な課題やリスクを抱える青少年を支援します。 小中高生を対象とした居場所づくり (1)みはらし教室の実施 創作活動、美術館見学、宿題支援 他 (2)市内の居場所と連携した活動支援	(1)40回 延べ118人 (2)22回 支援者数 22人

かもん未来塾

事業の柱	公益目的事業区分	事業名	内容	実施状況
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	寄り添い型生活支援事業	安定した生活基盤や学習機会が十分に与えられず困難を抱えている小中学生を対象に「気づき、やる気、希望」を引き出す寄り添い型支援を地域や専門機関との連携により実施しました。 ・かもん未来塾の運営	通年 開所時間 月・水・金 14時～19時 火・木 14時～21時

キッズ運営課

事業の柱	公益目的 事業区分	事業名	内容	実施状況
A 青少年活動を支援する事業	え 相談、助言	放課後キッズクラブの安定的な運営に向けた相談、助言	当法人の放課後キッズクラブ運営の実績を活かし、地域立ち上げ型NPO法人等を対象に、必要な助言やノウハウを伝達し、はまっ子ふれあいスクールから放課後キッズクラブへの円滑な移行および移行後の安定運営を支援しました。	3団体
		はまっ子・キッズ交流事業	放課後キッズクラブの現場実習を兼ねて、はまっ子ふれあいスクールと放課後キッズクラブの運営内容の違いや課題を確認し、はまっ子ふれあいスクールから放課後キッズクラブ移行の不安軽減につなげました。	6回28人
		ノウハウ提供による活動支援	地域立ち上げ型NPO法人等を対象に、地域や団体と連携した体験プログラムのノウハウ提供など、当法人の放課後キッズクラブ運営実績を活かして活動を支援しました。	1回1団体
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、育成	放課後3事業従事スタッフの人材育成、研修の充実	放課後事業に携わる人材の育成研修を実施しました。 (1)放課後児童育成事業人材育成研修 横浜市からの受託研修 (2)放課後3事業従事スタッフ対象の講座・研修 放課後支援員認定研修や市主催研修で扱われない実践的内容をテーマとした講座・研修	(1)通年 ・31講座 46回 ・実習 18回 (2) 4回
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	放課後キッズクラブ運営	児童の自主性や主体性・創造性を培い、安全、人権、教育に配慮しながら、市内17区26か所のキッズクラブを安定的に運営しました。 なお、平成20年度開設キッズクラブ（1か所）の運営法人再選定に応募しました。 (1)学校教育では得られない体験プログラムや発達に応じたプログラム等を実施しています。 ・異年齢交流につながるプログラム ・季節行事にちなんだプログラム ・親子参加プログラム ・地域や他団体等との連携プログラム ・スポーツ、文化活動、食育、環境プログラム等 (2)評議会、保護者会の開催 (3)主任・副主任会議の開催 (4)近隣の放課後事業所等との情報交換や合同スタッフ研修、交流プログラムの実施	通年 26か所 (1)4,971回 (26か所計) (2)評議会 計52回 保護者会 計54回 (3)13回 (4)随時
		人材育成 (スタッフ研修)	研修を通じて、放課後児童育成に関わるスタッフとして必要な知識や技能の習得・向上を図りました。 (1)主任・副主任研修 (2)非常勤職員研修	(1)7回 (2)3回
		ボランティア・高校生インターンシップ受け入れ	法人本部や運営施設と連携し、ボランティア活動希望者や社会貢献活動実習生を受け入れました。	1回 2キッズ 6人
		放課後キッズクラブの拡充	新規開設される放課後キッズクラブ運営法人募集状況（移行数・対象校など）を踏まえて対応しました。	応募 1か所

総務課

事業の柱	公益目的 事業区分	事業名	内容	実施状況
D その他、この法人の目的を達成するために必要な事業		賛助会員及び一般寄附者の拡充	賛助会員と一般寄附者の新規開拓並びに寄附拡充をめざし、施設と活用した会員募集事業の実施、会員及び事業協力者の交流の場の提供に努めています。 (1)会員募集事業「陶芸体験教室」 (2)新春のつどい	(1)3/11(金) (2)1/24(木)
		寄附金拡充を目的とした収益事業	日頃、青少年活動に関わりのない市民の方にも本事業に関わることで、法人事業の理解と青少年活動への関心を深めます。 (1)爆笑！濱っ子寄席（チャリティー寄席） 【収益事業】	10/20（金）
		法人の広報・PR	法人活動並びに寄附金を活用した事業を発信することで、青少年育成の理解と関心につなげています。 (1)よこはまユースレター(法人情報紙：年32,000部) (2)法人ホームページの維持・管理	(1)年3回 (2)通年
		職員の人材育成	職員として身に付けるべき技能・力量形成に必要な研修(実務、管理、マネージメント)を実施しています。 (1)新採用職員研修 (2)実務専門研修 (3)管理職研修 (4)人権研修	(1)随時 (2)随時 (3)随時 (4)1/31(水) ・2/1(木)

横浜市青少年育成センター

事業の柱	公益目的 事業区分	事業名	内容	実施状況
A 青少年活動を支援する 事業	あ 施設の貸与	諸室及び物品の貸出	<p>研修室や機材、印刷機、着ぐるみなどの貸出を行うことで、地域の青少年活動を支援しています。また、情報提供やロッカーの設置などのサービス向上に努め、多くの方がより利用しやすい活動環境を整備し、施設の利用促進に取り組んでいます。</p> <p>(1)研修室や機材、印刷機等の貸出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用件数 3,408件 ・稼働率 62.1% ・利用人数 44,258人 ・機材の貸出 410件 (コピー機、印刷機等) <p>(2)利用者サービスの向上および利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報紙「馬車道通信」の発行 7回 ・ロッカーの貸出 75件 ・コーヒーポットサービス 4.5件 <p>(3)防災・防犯 (訓練等の実施) 2回</p>	<p>(1)通年</p> <p>(2)通年</p> <p>(3)6/16(金) 2/16(金)</p>
		相談・コーディネート	<p>青少年育成に関わる指導者・支援者を対象に、活動場所や助成金などの相談・コーディネートを行っています。また、ボランティア活動や青少年育成に関する相談・コーディネートにも対応しています。</p> <p>(1)指導者・支援者の相談対応 場所や施設に関する相談等</p> <p>(2)ボランティア活動や青少年育成に関する相談・コーディネート 自立支援、相談機関、ボランティア募集 等</p>	<p>(1)通年 18件</p> <p>(2)通年 22件</p>
	え 相談、助言	情報提供	<p>青少年育成にかかる活動や研修情報、図書などが閲覧・収集できる「情報コーナー」を運営するとともにHPを活用し、青少年関係情報を発信しています。</p> <p>(1)情報コーナーの運営 団体情報等のファイリングや関係図書 (随時閲覧可)</p> <p>(2)青少年関係情報を発信 (情報収集・提供) ホームページによる情報発信 年間の閲覧数 40,571件 (ページビュー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年情報ページの更新 (月平均5.9回) (助成金、講座・研修情報、統計・施策等のトピック情報の掲載) ・活動レポートの掲載 54件 ・青少年向けのボランティア活動情報の提供 30件 	通年

平成29年度 公益財団法人よこはまユース 事業報告

事業の柱	公益目的 事業区分	事業名	内容	実施状況
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、 育成	課題解決に結び付けることができる人材の育成と支援	青少年の課題を正しく理解し、必要に応じて専門機関や社会資源などにつなぐ人材を養成しました。また、地域での活動を充実させる環境を整えるため、研修の体系化を行うほか、ユースコーディネーター認定制度に向けた準備を行いました。 (1)ユースコーディネーターの養成（連続講座） ①「子ども・青少年の声を聴き支援機関につなぐ」 ②「児童相談所の機能と地域の役割について」 ③「子どものサインを見逃さないために」 ④「生きづらさを抱える子ども青少年と共に生きる」 ⑤振り返りの会（無料） (2)ユースコーディネーター認定制度に向けた取組 1日目：青少年・若者を支える仕事 2日目：ユースワーカーに求められるスキル	(1) ①3/1(木) 14人 ②3/8(木) 20人 ③3/15(木) 23人 ④3/22(木) 22人 ⑤3/29(木) 5人 (2) 講座 (全2回) 2/17(土)、18(日) 22人
		人材のすそ野を広げるための講座・研修	地域で青少年に関わる人材のレベルアップを図るため、さまざまな研修・講座を実施しました。地域等において青少年の「居場所」のあり方について実践からヒントを得る連続講座のほか、活動に役立つ考え方や手法を学ぶ研修を実施しました。 (1)青少年の居場所づくり講座（連続講座） ①「居場所と呼ばれる“場”のつくり方」 ②「子ども、旅人、地域、多世代多国籍の居場所」 ③「遊び心の共有～子どもの楽しい“場”のつくり方」 ④「子ども・若者の居場所で大人ができること～居場所を感じる空間」 (2)スキルアップ研修（3講座） ①「広報・記録のためのデジカメ写真入門講座」 ②「ユースワーカー基礎講習」 ③「発達障がいの子どもの理解と支援講座」	(1) ①9/26(木) 14人 ②10/6(金) 9人 ③10/14(土) 5人 ④10/20(金)17人 (2) ①6/15(木) 30人 ②6/22(木)、 29(木) 延べ60人 ③7/13(木) 18(火) 延べ108人
		人材育成のためのネットワークの形成	青少年育成に関する課題の共有やノウハウなどを情報交換できる、団体や施設間のネットワークを推進しました。 (1)よこはまユースゼミ ①「子どもとの接し方と親への声かけ」 ②「小学生の子どもとの信頼関係を作る」 ③「居場所としてのこども食堂の今」 ④「小学生の子どもとの信頼関係を作る」 ⑤「中高生の居場所に学ぶ」 (2)団体連携事業 (青少年活動団体のための大交流会)	(1) ①8/4(金) 28人 ②1/26(金) 3人 ③2/15(木) 12人 ④2/20(火) 2人 ⑤3/6(火) 2人 (2) 2/25(日) 67人
		活動充実のための研修事業	青少年育成に関する専門的知識やスキルを学ぶ機会を提供することで、青少年に関わる活動において力を発揮できる人材を育成しました。 (1)ステップアップ研修 (2)専門研修 ①「こどもの事故は予防できる」 ②「こどもの遊びと生活のリスクとハザード」	(1) 10/25(水) 16人 (2) ①3/9(金) 14人 ②3/20(火) 13人
		青少年育成活動の担い手の養成	次世代の担い手となる青少年が、ボランティア活動等への参加を通じて、地域活動や社会参加に関心を持つきっかけづくりを提供することで、青少年育成活動の拡がりや充実を図りました。 ・ユースチャレンジ「きずな夏祭り」 ①事前研修 8/3(木) 参加ボランティア：24人 ②事前準備 8/16(水) 参加ボランティア：27人 ③イベント当日 8/17(木) 参加ボランティア：30人 8/18(金) 参加ボランティア：20人	イベント参加者 延べ823人 ボランティア 4日間 延べ101人

横浜市野島青少年研修センター

事業の柱	公益目的 事業区分	事業名	内容	実施状況
A 青少年活動を支援する事業	あ 施設の貸与	施設・設備貸出事業	施設の安全性、利便性を高めるため、利用団体の活動目的や特性を配慮し、要望に柔軟に対応しました。 (1)プログラムの事前相談・コーディネート (2)利便性を高める利用者サービスの向上 ①食堂・研修室の無線LAN環境を整備 ②物品販売の充実(スリッパ、歯ブラシ、ロウソク) (3)体験プログラム情報の発信、資料の提供	通年 (1)事前打合せ会 団体:213件 学校:98校
		利用促進事業	より多くの体験活動や研修の機会を提供するため、団体毎の目的に沿った活動モデルの周知を計画的に行いました。 (1)教育機関:部、生徒会、サークル活動対象 (2)中小企業:職員研修、部、サークル活動対象	(1)5~9月 訪問7校 チラシ配布75校 (2)10月 施設PR
	お 調査、資料収集	体験プログラムの調査研究	多様化する青少年のニーズにあった効果的な体験プログラムを提供するため、体験プログラムについて検証・改善を図りました。 (1)困難を抱える青少年に効果的な体験プログラムのニーズ調査、報告 (2)ニーズ調査結果に基づいたプログラムの試行と検証 (3)体験プログラム協力団体の開拓	(1)5~9月 ヒヤリング 10団体 アンケート 24件 (2)12月 3)2団体
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、育成	青少年指導者・育成者研修	青少年指導者・育成者の活動支援を目的とした講習会を実施するとともに、情報提供や相談対応を行いました。 (1)実践的な指導者・育成者対象講習会の実施 (2)指導者・育成者への情報提供、相談対応	(1) 4/30(日) 35人 5/13(土) 7人 (2)通年
		ボランティアの養成	青少年の体験活動を支える体制づくりをめざし、高校生からシニアまでの幅広い層にボランティア活動機会を提供し、活動を支援しました。 (1)事業や体験プログラムでのボランティアの受け入れと支援 (2)施設ボランティアの養成 ・活動説明会 4回 ・活動研修会 1回 ・活動ふりかえり 1回	(1)554人 (2)26人
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 ↓	う 体験活動等 ↓	体験プログラムの提供	より多くの青少年に体験機会を提供できるよう、利用者のニーズや学校の教育カリキュラムに応じた体験プログラムを開発・提供しました。 (1)施設特性を活かしたプログラムの開発と提供 (2)自然環境を活かしたプログラムの開発と提供 (3)地域産業との連携事業実施に向けた企画調整 ・榎横浜シーサイドライン連携「プレミアム探検ツアー」 (4)防災キャンプ	通年 (1)12,436人 (2)12,508人 (3)9/9(土)36人 (4)2回 85人

平成29年度 公益財団法人よこはまユース 事業報告

事業の柱	公益目的 事業区分	事業名	内 容	実施状況
↑ C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	↑ う 体験活動等	市民活動団体と協働した体験プログラム	安全かつ充実した体験機会の提供、並びに環境保全活動に、市民活動団体と協働し取り組みました。 (1)自然体験キャンプの実施 ①カヌー体験キャンプ ②のじまチャレンジキャンプ ③1泊2日の秘密基地づくり (2)自然・文化体験教室の実施(日帰り) ①カヌー体験教室 3回 ②シーカヤック教室 3回 ③陶芸教室 1回 ④クッキング教室 2回 (3)野島海岸の保全活動 5回	(1)各回土日 1泊2日 ①6/3~4 7/1~2 78人 ②9/30~10/1 38人 ③10/28~29 24人 (2) ①58人 ②28人 ③ 5人 ④22人 (3)7月~2月 316人
		困難を抱える青少年のための体験活動の支援	困難を抱える青少年がコミュニケーション能力の向上や自信回復を図れるよう、生活体験や集団活動の機会を提供しました。 (1)不登校児童生徒の宿泊体験の実施 (2)障がいのある児童生徒の宿泊体験の実施 (3)困難を抱える青少年を対象とした宿泊キャンプの実施	(1) 11/21(火)~22(水) 122人 (2) 12/9(土)~10(日) 87人 (3)3事業 6回 158人
		地域交流事業	施設の活動及び青少年に対する理解を深めてもらうため、近隣地域と交流を深めました。 (1)地域住民と連携した事業の実施 ①町内会主催陶芸教室 ②金沢区主催コグニサイズ体験教室 (2)地域ネットワーク会議の開催 (3)地域との防災への取組み ①金沢区災害ボランティアネットワーク定例会、事業準備会 ②金沢災害シミュレーションのボランティア受入 (4)のじまオープンデーの実施	(1) ①3回 33人 ②9回 361人 (2) 2回 18人 (3) ①随時 ②1/27(土) 5人 (4) 2/25(日) 406人

Ⅳ 各課・施設の事業報告

A:青少年活動を支援する事業 え:相談、助言

事業名				青少年の居場所・地域活動支援事業			
日時/回数		通年		場所		岡村地区、神大寺地区、十日市場中学校、横浜総合高校 他	
対象		青少年団体、青少年育成団体					
事業目的				・地域の団体による青少年育成活動および青少年活動に対する支援を通して、青少年と大人がともに育つ環境を醸成する。			
実施内容				<p>(1)地域の青少年育成活動の推進・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・磯子区岡村地区「子どもの幸せを実現する会」…事業補助金の交付、活動相談、運営補助(役員会等)、自立運営に向けたコンサルティング ・神奈川区神大寺地区「GROVE運営委員会」…事業補助金の交付、次年度以降の活動相談、地域活動の後援 ・十日市場中学校地域交流事業…地域交流会、実行委員会への参加、夏ボラ事業の視察 <p>(2)学校内での居場所づくり支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜総合高校…交流相談の場「ようこそカフェ」の運営支援 全31回 延べ参加人数:6236人、1回平均:201人 平成30年度こどもの未来応援基金を獲得、カフェの取り組み紹介多数(FMヨコハマ、神奈川新聞ほか) <p>【協働、連携】</p> <p>(1)子どもの幸せを実現する会、岡村中学校、GROVE運営委員会、神大寺地区センター、十日市場地域交流事業実行委員会、十日市場中学校、緑区役所</p> <p>(2)横浜総合高校、多文化教育ネットワーク神奈川、横浜メンタルサービス、横浜市立大学</p>			
事業名				活動の相談・助言			
日時/回数		通年		場所		主に横浜市内	
対象		市民、企業、地域団体等		件数		58件(相談、支援の件数)	
事業目的				・企業や団体の社会貢献活動を支援し、地域の青少年活動を推進する。			
実施内容				<p>(1)活動相談(プランニング・助言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ※よこはまユースの講師派遣・相談事業の紹介パンフを作成配布(青少年指導委員や拠点連絡会ほか) ・青葉区のおおばこどもシステムの青少年部会に参加し、青少年育成活動への助言を行った。 ・西区福祉計画「にこまち」の児童部会へ助言(青少年の居場所づくりや青少年に関わる大人の研修会ほか) ・横浜市子ども若者支援協議会にて居場所調査や青少年活動事例を報告 ・「よこはまユースアップス」(主催:横浜市政策局)での市内の青少年活動の事例報告や情報提供 ・青少年の地域活動拠点の活動支援(保土ヶ谷区、南区、栄区、青年館) <p>(2)企業の社会貢献プログラムの支援・推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 横浜南央ロータリークラブ社会貢献事業、ライオンズクラブ330-B地域社会貢献事業、セカンドリーグ神奈川の活動支援 バルシステムかながわゆめコープの奨学金制度の立ち上げ支援、(株)ブギ古本募金の活動支援、NPO法人ミニシティプラス「こどものまち全国サミット」の活動支援 <p>【協働、連携】</p> <p>横浜市政策局、ブックオフオンライン(株)、コミュニティーデザイン・ラボ、一般社団法人横浜すばいす</p>			
事業名				知っておきたい!子ども・若者どこでも講座			
日時/回数		通年		場所		横浜市内	
対象		青少年指導員・民児協・PTAなど地域で青少年育成に取り組む団体		件数		60件	
事業目的				・青少年を取り巻く現状や課題の啓発を通して、地域全体で青少年を見守る意識を育む。			
実施内容				<ul style="list-style-type: none"> ・地域の団地や学校、PTA等が主催する青少年課題をテーマとした研修や講座へ講師を派遣した。 ・講師の選定・連絡調整を行うとともに、実施に係る講師謝金・交通費も負担。 <p>【主なテーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「子どもとの関わり方」「インターネット・携帯電話」「非行」「性教育・性」「薬物」「若者の自立支援」「心の問題」等 <p>【事前準備】 講師との連絡調整・依頼手続き、打ち合わせへの同行等実施の準備</p> <p>【当日】 実施の立ち合い・記録</p> <p>【事後】 講師への謝金支払、アンケート集計</p> <p>【協働、連携】 学識経験者や活動実践者、医療関係者および関係機関に講師を依頼。</p>			

A:青少年活動を支援する事業 お:調査、資料収集

事業名	調査・研究事業
日時/回数	通年
対象	青少年および青少年育成活動全般
事業目的	・青少年および青少年育成に関する調査・研究を通して、青少年のニーズと社会的課題に対応した新たな事業展開を目指す。 ・成果の蓄積と発信により、青少年育成分野における法人の価値を高める。
実施内容	青少年のニーズと社会的課題に応じた新たな事業展開に向けて、大学等と連携して青少年に関する調査研究を実施した。 (1)調査研究…社会体験活動の実態調査(インターネット調査)3,000件 調査内容:青少年期の体験の度合いと成人後の社会参加や社会性の関係 (2)活動情報誌「yokohama eye`s」の発行…テーマ:「体験から体験の共有へ」体験活動の必要性 1,200部 【協働、連携】 横浜市立大学、一般社団法人横浜すばいす

B:青少年を支える人材を育成する事業 い:講座、セミナー、育成

事業名	啓発事業		
日時/回数	通年	場所	主に横浜市内
対象	青少年育成に関わる大人、小中高校生の保護者などの市民	件数	235人(エンパワメントセミナー参加者)
事業目的	・青少年を取り巻く現状や身近な課題について啓発し、青少年への理解を深め、地域の大人が青少年を見守る“目”を育む。		
実施内容	講演会や勉強会を通じ、青少年の支援に関わる人材の育成に取り組む。 (1)エンパワメントセミナー(啓発講座)の実施 7/11(火)実施 「自傷行為の理解」 参加者235人 テーマ設定は、高校の交流相談カフェや居場所研究会などの運営や関わりを通して、関係機関や団体スタッフからのニーズが多くあった「自傷行為」をテーマとした。講師には、国立精神・神経医療研究センター薬物依存研究部長、自殺予防総合対策センター副センター長の松本俊彦先生に依頼した。 【掲載依頼】 広報よこはま 等 10件 【チラシ配布】 公共施設(地区センター、図書館 等)、市立小中高校、キッズクラブ・はまっ子ふれあいスクール 青少年関係団体(市P連、市子連、民児協、青指)、市内の大学学生課 600件 (2)事例研究・勉強会の実施 ・事例検討会11/24(金) ・勉強会2/16(金) 横浜市立大学と寄り添い型支援事業の受託団体と連携し、寄り添い型支援事業の事例検討を実施した。		
事業名	講師派遣・研修受託		
日時/回数	通年	場所	横浜市内
対象	青少年団体および青少年指導者・育成者	件数	講師派遣:23件、研修参加者:89人
事業目的	(1)講師派遣:地域における青少年育成活動や居場所づくり活動等の充実・発展のために職員の派遣を行う。 (2)研修:地域で青少年に関わる青少年支援者等に対して、支援に必要な専門スキルの向上や支援に関わる社会資源の利用方法、支援者同士の連携手法を学ぶ機会とする。		
実施内容	(1)講師派遣 ・派遣先:キリンビール社員研修、横浜市教育委員会人権教育、金沢区社協 他 (2)研修受託(横浜市から受託) ・内容:地域の支援者、横浜子ども学習・生活支援四事業支援者向け研修(100人会議) ・日時:3/10(土)		

C:青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 う:体験活動等

事業名	自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供 団体との連携事業		
日時/回数	通年	場所	横浜市内、山梨県道志村水源林 他
対象	小学生～高校生		
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の青少年育成団体や関係機関等と協力し、自然環境や社会資源を活用した青少年の体験活動の機会を広げる。 ・ボランティアなど体験活動を通じて、青少年の社会性や自主性を育む。 		
実施内容	<p>(1)市民団体と協働した体験プログラムの実施:通年 開港祭体験ブース出展(ボーイスカウト)、三陸漁業体験(南央ロータリークラブ) 子どものお弁当コンクール(一般社団法人横浜すばいす)</p> <p>(2)高校生水源林保全ボランティア ・8/1(火)、定員120人/参加者77人</p> <p>【協働、連携】</p> <p>(1)横浜市少年五団体(ボーイスカウト横浜市連合会、ガールスカウト横浜市連絡協議会、横浜市健民少年団、横浜市海洋少年団、横浜市子ども会連絡協議会)、南央ロータリークラブ、一般社団法人横浜すばいす</p> <p>(2)横浜市水道局</p>		
事業名	自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供 教育機関との連携事業 サイエンスプログラム		
日時/回数	通年	場所	横浜サイエンスフロンティア高校
対象	小学生～高校生		
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・市立高校など横浜市内の教育機関と連携し、青少年に自然・社会体験の機会を提供する。 ・様々な体験を通じ、青少年の身近な自然環境や社会に対する興味関心を高める。 ・高校生がこれまでの学習を活かした社会貢献活動や相談を通じて、社会に参加するきっかけをつくる。 		
実施内容	<p>横浜市立サイエンスフロンティア高校と連携事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天文教室 11/19(日)、参加者57人 ・化石教室 2/25(日)、参加者39人 ・プログラミングロボット3/11(日)、参加者17人 <p>【協働、連携】</p> <p>横浜市立サイエンスフロンティア高校(理科調査研究部、天文部、情報工学部)</p>		
事業名	道志村と連携した自然体験プログラムの実施		
日時/回数	10/5(木)～6(金) 1泊2日	場所	見学:横浜市内 宿泊:横浜市野島青少年研修センター
対象	道志村立道志小学校5年生と引率教員、教育委員会	件数	道志小5年生17人、引率者9人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市の小学生と道志村の小学生の交流を深める。 ・横浜での社会見学の機会を提供し、道志小児童に横浜への理解を深める。 		
実施内容	<p>道志村児童を横浜に招待し、市内の小学生との交流、横浜市を中心とした社会見学の機会を提供することで、横浜市と道志村の交流と相互理解を深めた。</p> <p>【事前】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道志小学校、万騎が原小学校と打ち合わせ、活動内容調整 ・企画立案、関係先への手続き ・浄水場、工場等活動先との打ち合わせ <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加人数26人(児童17人、引率教員等9人) ・児童の誘導、引率、引率教員との調整 ・活動プログラム <p>川井浄水場見学/万騎が原小学校児童との交流会/横浜港見学(大棧橋、遊覧船乗船)/中華街、マリンタワー見学 産業工場見学(日産追浜工場見学)/横浜市の水源地道志情報館水カフェどうし(洪福寺松原商店街)見学</p> <p>【協働、連携】</p> <p>横浜市立万騎が原小学校、道志村立道志小学校、道志村、道志村教育委員会、こども青少年局青少年育成課</p>		

A:青少年活動を支援する事業 あ:施設の貸与

事業名	活動支援事業		
日時/回数	通年	場所	青少年交流・活動支援スペース
対象	青少年およびスペース利用者	利用数	青少年利用者数 35,713人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年が学校や地域、世代を越えた人々と出会い、交わり、つながる、きっかけとなる居場所づくりに取り組む。 ・青少年が自主的に活動する場を提供し、青少年活動の推進を図る。 ・青少年の視点を取り入れた新たな広報活動と利用促進に取組み、認知度の向上を目指す。 		
実施内容	<p>(1)フリースペースの運営 青少年利用者:11,196人 ※28年度:8,831人 交流・読書・学習等の各スペースの設置、ロビーワークの実施</p> <p>(2)諸室の貸出 稼働率:67.3% 青少年利用者:24,517人 ※28年度:60.8% 青少年利用者:22,343人 音楽スタジオ、研修室、多目的ルームなど設備の貸出、音楽プレーヤーや映像機器など機材・備品の貸出</p> <p>(3)利用促進 ツイッター等による広報、街頭ティッシュ配布、ロビーワークによる利用者ニーズ・満足度の把握 地域での活動報告(8回)西区、中区の青少年指導員会議、小中校長会、PTA協議会、野毛地区連絡会 他</p>		

A:青少年活動を支援する事業 え:相談、助言

事業名	相談支援事業		
日時/回数	通年	場所	青少年交流・活動支援スペース
対象	青少年および保護者	件数	99件(個別相談件数)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年に日常的な相談/助言、傾聴を行い、信頼関係を築くとともに青少年の成長と自立を支援する。 ・青少年のニーズ(潜在的な課題や欲求)を把握して、必要な活動や支援に結び付ける。 ・青少年を取り巻く現状や身近な課題を知り、必要な知識を学ぶことで、青少年が課題や困難に直面するリスクを減らしていく。 		
実施内容	<p>(1)日常的な相談支援:ロビーや受付での日常的な会話(傾聴)を通じた傾聴件数:765件</p> <p>(2)個別相談:相談件数:99件 ボランティアや成果発表など活動相談のほか、家庭や学校生活でのトラブルや人間関係、アルバイト、大学受験などの相談が多かった。</p> <p>(3)啓発事業 ①青少年対象:生物多様性～子どもの人権 参加者:77人 ②保護者対象:「子どもたちの現状と地域ができることを考える勉強会」(にこまち連携):参加者20人</p>		

B:青少年を支える人材を育成する事業 い:講座、セミナー、育成

事業名	青少年サポーター育成事業		
日時/回数	通年	場所	青少年交流・活動支援スペース
対象	大学生以上	件数	延べ214人(青少年サポーター活動人数)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年がより「相談しやすい」環境を作るため、スタッフと青少年とをつなぐ、大学生以上の支援ボランティアを育成する。 ・周辺地域の人材を活用することで、スペースの存在意義や取り組みの理解を地域に広めていく。 		
実施内容	<p>(1)青少年サポーター事業 活動人数:214人 活動内容:ロビーワーク、野毛ボラどこいぎ隊、みはらし教室、交流事業(さくりピカカフェ)、マチピカ 他</p> <p>(2)シニアボランティアの育成事業 ボランティア研修:9/10(日) 文京区 b-labの視察研修 参加者:7人</p>		

C:青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 う:体験活動等

事業名 青少年の交流・体験事業			
日時/回数	通年 / 10回	場所	青少年交流・活動支援スペース
対象	青少年～30歳、地域や諸室利用の大人	参加者	延べ226人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な交流プログラムを通して、青少年の出会いと仲間づくりを支援する。 ・世代や地域を越えた多様な人との出会いや交流を通して、ともに活動しながら学び合う機会をつくる。 ・地域の大人が青少年と知り合う機会をつくることで、青少年を見守る大人の「輪」を広げる。 		
実施内容	<p>(1)交流促進事業(年6事業) 延べ参加者:140人 映画で英会話交流会、アクセサリーづくり体験、パスタカフェ、アニメ交流会、書道カフェ、みんなで鍋パ</p> <p>(2)青少年チャレンジ事業(年4事業) 延べ参加者:86人 英検3級チャレンジ(前期)、バンドレベルアップ講座、英検3級チャレンジ(後期)、書道教室(書初め1day)</p> <p>【協働、連携】 諸室利用者・団体、ぴおシティ商店会、野毛地区街づくり会 他</p>		
事業名 社会参加プログラム			
日時/回数	通年	場所	西区中区の地域、青少年交流・活動支援スペース 他
対象	中高生～社会人	参加者	275人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・社会体験を通して、青少年が社会や仕事について知り、将来を考えるきっかけとなる体験を提供する。 ・若者世代が趣味や活動、学びの場を通して、ともに社会について考える若者コミュニティを作り社会参加の機会を提供する。 		
実施内容	<p>(1)社会体験・就労体験活動 ①社会見学ツアー(横浜港湾見学ツアー 参加者:5人) ②若者インターンシップ(施設実習、野菜販売、工場見学 参加者:13人)</p> <p>(2)若者コミュニティ事業 ①ワイン講座(参加者:20人) ②和食文化講座(参加者:10人) ③カタン大会(参加者:7人)</p> <p>(3)青少年ボランティア事業 ①夏期ボランティア体験(西区中区の施設で実施 参加者:27人) ②青少年ボランティア活動(地域清掃、道案内、マジックボラ 他 参加者:162人)</p> <p>(4)青少年委員会の運営(登録委員:5人) 定例会(6月から)、アンケート調査、広報活動 延べ活動人数:31人</p> <p>【協働、連携】 ぴおシティ商店会、野毛地区街づくり会、驛テラス、(株)アグリ王</p>		
事業名 困難を抱える青少年の活動支援事業			
日時/回数	通年	場所	学習会:第2研修室、みはらし教室:フリースペース
対象	困難を抱える中高生	参加者	140人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・「居場所」でのつながりを通して、潜在的な課題やリスクを抱える青少年を支援に繋ぐ。 ・地域の大人や団体、企業とのつながりを活かして、青少年の支援の充実を図る。 		
実施内容	<p>(1)小中高生を対象とした居場所づくり ①みはらし教室の実施(宿題支援、創作活動(工作等)、美術館見学など) 40回 参加者:118人</p> <p>②青少年支援団体の活動支援 22回 支援者数:22人</p>		

C:青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 う:体験活動等

事業名	寄り添い型支援事業 かもん未来塾の運営(西区受託事業)		
日時/回数	通年 月～金 14時～19時(火・木 21時)	場所	西区かもん未来塾(西区中央)
対象	西区が支援を必要と判断した困難を抱える小中学生	参加者	15人 ※うち被保護世帯14人 小学生:9人、中学生6人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・困難を抱える小中学生を対象に「気づき・やる気・希望」を引き出す。 ・他者との関係性を築きながら自らが安心していられる場(居場所)を提供する。 ・地域や専門機関と連携し、子どもを見守る地域の環境を築く。 		
実施内容	<p>【実施内容】 区が指定した生活保護家庭の児童生徒を中心に学習支援、生活支援、総合支援を実施する。</p> <p>(1)学習支援:宿題・課題など日々の学習や補習を支援。定期テスト対策や進学支援(高校見学など)。</p> <p>(2)生活支援:手洗い・うがい、片付けなど生活の基本行動の第一歩から始め、個々の成長に合わせて指導。</p> <p>(3)総合支援:季節ごとのプログラムの実施(1・3月映画鑑賞会、ライオンズクラブによる食の提供)。 保護者を含めた相談支援 等</p> <p>【ボランティア】 6人(うち、かもん未来塾卒業生1人)</p> <p>【その他】 ・ 定量化評価の試行的導入(定員に対する充足率、登録者の参加率による満足度、区が定める個別の支援目標〈本事業を利用することで実施できる支援〉に対する達成度) ・ 法人本部との定例ミーティングの実施</p> <p>【協働、連携】 西区役所福祉保健センター(生活支援課、こども家庭支援課)</p>		

A:青少年活動を支援する事業 え:相談、助言

事業名	放課後キッズクラブの安定的な運営に向けた相談、助言 都筑区放課後キッズクラブ運営NPO法人設立支援等業務		
日時/回数	通年		
対象	はまっ子ふれあいスクールチーフパートナー、新規開設放課後キッズクラブの運営法人・スタッフ(11団体)		
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・全校放課後キッズクラブ転換という市の施策の推進を受け、中間支援的役割を担う。 ・複数か所の放課後キッズクラブの運営経験で得たノウハウを還元する。 ・地域立ち上げ型NPO法人による放課後キッズクラブの運営を支援する。 		
実施内容	<p>(1)放課後キッズクラブ立ち上げにかかわる相談、助言(3団体6件) はまっ子ふれあいスクールから放課後キッズクラブへの円滑な移行に向けた必要な助言やノウハウを伝達した。</p> <p>(2)情報交換会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ①6/21(水)「スタッフ配置と補助金の話など」参加:4校6人 ②11/15(水)「保護者との関わり方を考える」参加:5校8人 ③3/15(木)「伝える力を伸ばすワーク」申込:1校4人 ※都筑区の判断により中止 <p>(3)放課後キッズクラブ通信の発行(年4回):No5(9月発行)、No6(12月発行)、No7(2月発行)、No8(3月発行)</p> <p>(4)現場見学:3校6人(会場:十日市場小キッズ、すすき野小キッズ) ※実施時期、内容が同じであることから横浜市人材育成研修の現場実習として実施</p> <p>【協働、連携】 都筑区こども家庭支援課</p>		
事業名	はまっ子・キッズ交流事業		
日時/回数	1/22(月)・23(火)・25(木)・29(月)、2/9(金)・14(水)	場所	法人運営の放課後キッズクラブ
対象	はまっ子ふれあいスクールチーフパートナー	定員	各回10人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・全校放課後キッズクラブ転換という市の施策の推進を受け、中間支援的役割を担う。 ・放課後キッズクラブスタッフが閉塞的にならないために、日々の運営を客観的に振り返る機会にする。 ・将来的に、放課後キッズクラブの運営法人の枠を超えた関係づくりのきっかけにする。 		
実施内容	<p>(1)はまっ子ふれあいスクールと放課後キッズクラブの運営の相違の確認</p> <p>(2)キッズクラブスタッフから現場運営の課題や成果の発表</p> <p>【交流会場】 永田小キッズ、長津田小キッズ、飯島小キッズ、本町小キッズ、太田小キッズ、名瀬小キッズ ※実施時期、内容が同じであることから横浜市の人材育成研修の現場実習として実施。</p> <p>【交流人数】 はまっ子ふれあいスクール19校28人</p>		
事業名	ノウハウ提供による活動支援		
日時/回数	2/24(土)9時~15時	場所	日本丸メモリアルパーク
対象	地域NPO立ち上げ型法人による放課後キッズクラブ		
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や団体と連携した体験プログラムのノウハウ提供を行い、子どもたちの体験活動の幅を広げる。 		
実施内容	<p>海苔づくり体験学習:NPO法人六つ川キッズクラブ(当日参加者児童:6人、引率スタッフ・保護者:8人) 講師との連絡、時程の調整、お出かけプログラムの事業計画、児童引率時の留意点などを提供した。 ※当法人運営の港南台第三・秋葉・本町・上矢部小キッズクラブのスタッフとの意見交換。</p>		

B:青少年を支える人材を育成する事業 い:講座、セミナー、育成

事業名	放課後3事業従事スタッフの人材育成、研修の充実 横浜市放課後児童育成事業人材育成研修		
日時/回数	延べ72日	場所	市内施設(健康福祉センター、技能文化会館 他)
対象	横浜市放課後3事業従事スタッフ	件数	延べ3,656人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市放課後3事業(放課後児童クラブ、放課後キッズクラブ、はまっ子ふれあいスクール)及び放課後児童人材育成事業の届出をした事業所が、各事業の目的を達成するために必要な資質を備えた人材を育成する。 ・法人として中間支援的機能を果たす。 		
実施内容	<p>横浜市との契約内容(仕様書)に基づき、研修を実施した。</p> <p>【事前】 講師選定・依頼・打合せ、会場及び機材の手配・手続き、 研修参加者受け入れ準備(周知、名簿作成、人数調整、問合せ対応)、資料作成</p> <p>【当日】 会場設営、講師対応、参加者対応(受付)、進行管理</p> <p>【講座内容】 放課後事業の理念と児童理解、児童の安全、障害理解、事業概要、児童・保護者との関わり、学校・保護者・地域との連携、 パソコン講習、対人援助技術、遊びの技術、表現活動(音とリズム・工作・子どもの社会的スキル)、おやつ 他</p>		

事業名	放課後3事業従事スタッフの人材育成、研修の充実 放課後事業“スタッフ力”アップ研修		
日時/回数	2/9(金)・16(金)・19(月)・23(金) / 4回	場所	横浜市青少年育成センター
対象	横浜市放課後3事業に従事するスタッフ	参加者	延べ120人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後事業に共通する研修テーマを通じ、キッズクラブとはまっ子ふれあいスクールなど異なる事業所の職員の交流の場を設ける。 ・他の放課後事業の運営について情報をえることで、職員が日々の運営を客観的に振り返る機会を提供する。 ・放課後事業に従事する職員として必要な知識や技術を学び、子どもたちに安心して安全な放課後の居場所を提供する。 		
実施内容	<p>(1)『「キケン」の芽の摘みとり方』</p> <ul style="list-style-type: none"> ①2/9(金) 「入門編」参加者:25人 ②2/16(金) 「実践編」参加者:17人 <p>【内容】</p> <p>子どもたちの活動に潜む危険についての解説、ワーク:安心して安全な活動をするためのチェックポイント、情報交換(現場での安全管理など)</p> <p>(2)『こどもの心を聴く』</p> <ul style="list-style-type: none"> ①2/19(月) 参加者:42人 ②2/23(金) 参加者:36人 <p>【内容】 講義・ワークショップ:「どんな感情があるのか」</p> <p>【内容】 講義・ワークショップ:「今学校で起きていること」「子どもと効果的に接するために」</p>		

C:青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 う:体験活動等

事業名	放課後キッズクラブ運営		
日時/回数	通年	場所	横浜市立小学校内 17区26か所
対象	小学生	参加者	443,137人(26か所延べ)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・通い慣れている小学校の施設を活用して、すべての子どもたちにとって安全で快適な「放課後の居場所」を提供する。 		
実施内容	<p>【放課後キッズクラブ運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在籍児童数の53.5%(26か所の平均値)が登録しました。 ①プログラム実績 <ul style="list-style-type: none"> 月平均約15.9回、総計4,971回、延べ111,422人が参加しました。 ②評議会、保護者会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・評議会 26か所、計52回 ・保護者会 26か所、計54回 ③主任会議、副主任会議の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・主任会議 4/4(火)、7/4(火)、9/5(火)、10/4(水)、12/5(火)、1/5(金)、3/26(月) ・副主任会議 6/6(火)、8/3(木)、11/2(木)、2/2(金) ・合同会議 5/6(金)、3/6(金) ④近隣の放課後事業所等との交流プログラムの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・港南台第三小キッズ:「港南台放課後クラブ連絡会」 <ul style="list-style-type: none"> お楽しみ映画会&交流会 8/23(水)・交流プレイパーク 3/26(月) ・笹野台小キッズ:ドッジボール交流 東希望が丘小学校はまっ子ふれあいスクール 2/17(土) ・長津田小キッズ:ドッジボール予選会 鴨居小はまっ子・山下みどり台小キッズ・中山小キッズ・ <ul style="list-style-type: none"> 上山小はまっ子・森の台小キッズ・いぶき野小キッズ・みほ学童・山下小はまっ子 12/26(火) ・岡村小キッズ:ドッジボール予選会 滝頭小キッズクラブ・浜小キッズクラブ・洋光台第一小キッズクラブ・ <ul style="list-style-type: none"> 上中里学童クラブ 12/26(火) ・瀬ヶ崎小キッズ:ドッジボール予選会 文庫小キッズ、釜利谷東小はまっ子、釜利谷小南はまっ子 8/3(木) <ul style="list-style-type: none"> ドッジボール交流戦(お土産交換) 文庫小キッズ 12/26(火) ・永田小キッズ:ドッジボール・ゲーム 六つ川小キッズ、南太田小キッズ 12/16(土) ・上矢部小キッズ:ヒップホップ教室・科学理科実験 鳥が丘小キッズ・YMCA山手台学童クラブ 8/3(木)・7(月) ・寺尾小キッズ、上寺尾小キッズ:ドッジボール交流会 7/26(水) ・上寺尾小キッズ:はまキッズ会スマイルドッジ大会 8/29(火) 【人材育成(スタッフ研修)】 <ul style="list-style-type: none"> ・常勤職員研修 5/2(木)、3/6(火) ・主任研修 9/5(火)、12/5(火)、1/5(金) ・副主任研修 8/3(木)、2/2(金) ・非常勤職員研修 3/2(金)、3/5(月)、3/9(金) 【高校生インターンシップ受け入れ】 <ul style="list-style-type: none"> ・港南台第三小キッズ 4人 ・本町小キッズ 2人 		

【各放課後キッズクラブの状況】 (区名50音順)

区名	学校名(小学校)	在籍人数(人)	登録人数(人)	延べ参加児童数(人)	プログラム数(件)	プログラム参加人数(人)	主なプログラム
青葉区	すすき野	171	81	5,772	214	2,777	凧つくり/キッズ菜園/プラバン/ハンドベル/木の枝教室/大掃除/手芸/伝承遊び/科学実験教室/ハロウィンパーティー/横浜FCと遊ぼう など
旭区	笹野台	612	359	20,190	287	5,778	スライム作り/編み物教室/スポーツチャンバラ/ディスクミサンガ/折紙の日/空き箱工作/プラネタリウムへ行こう など
泉区	和泉	345	175	11,840	64	1,540	防火・防災訓練/大学生と科学工作/親子工作&茶話会/クリスマス&お正月飾り作品展出品/かるた大会/手芸教室 など
磯子区	岡村	386	223	12,987	191	3,552	キッズ夏まつり/お正月遊び/親子でシェウマイ作り/ドッジボール大会/クリスマス会/親子でグランドゴルフ など
神奈川区	浦島	498	284	18,874	158	3,425	将棋オセロ/3B体操/スポーツ教室/映画上映会/ハンドベル/水遊び/ハロウィン/アイススケートに行こう/ビーズストラップ作り/中庭パーベキュー など
金沢区	瀬ヶ崎	376	192	9,890	145	1,808	おばけちゃんフェス/クラフト週間/水鉄砲合戦/瀬ヶ崎探検隊/みんなでドッジ/みほさんのわくわく工作 など
	能見台	439	235	11,820	186	2,731	サッカー教室/うつつ絵の日/うちわ作り/ワイヤー工作/キッズ祭り/DVD鑑賞会/ドッジボール/紙芝居/レゴの日 など
港南区	港南台第三	293	188	14,034	258	4,727	きずな夏祭り/フラダンス教室/囲碁将棋/スケート教室/くわがた研究会/ビンゴ大会/キラキラプラバン/編み物教室/敬老カード作り など
港北区	日吉南	839	421	24,174	114	3,520	ドッジボール/絵画教室/壁面装飾/地域交流カレンダーづくり/キッズ工房/シャボン玉/オセロゲーム/夏祭り会/メッセージカード作り/ソフトボール など
栄区	飯島	569	310	16,720	343	4,301	豆まき/企画工作/門松作り/ハンドベル/アイロンビーズ など
	桜井	354	214	11,917	106	2,466	プラバン/茶道教室/映画を見よう/七夕飾り作り/野島キャンプ/壁面作りクリスマス/生チョコ作り/ちらし寿司作り など
瀬谷区	瀬谷さくら	430	202	10,091	128	3,687	オリジナル紙飛行機大会/キッズシアター/折紙教室/学年総合めり絵/とうもろこし狩り/下瀬谷鍋を食べよう/工作教室 など
	南瀬谷	821	303	16,357	123	5,889	わくわく緑日/下瀬谷消防署に行こう/Tシャツ藍染/ヨット乗船体験/コイン落とし・輪投げ/防災訓練/スイカ割り/豆まき など
都筑区	折本	772	405	26,122	248	3,958	防災センター/和太鼓体験/お手玉遊び/学童ハマッコキッズ合同作品展/ハロウィン/キッズ祭り/ドッジボール大会/ハーブ&フルート など
鶴見区	上寺尾	558	336	21,264	282	8,039	フラダンス/ビーズ教室/ドッジボールクラブ/アイロンビーズ/習字/ジャイロを飛ばそう/校庭で鬼ごっこ/アイススケート教室 など
	寺尾	689	383	20,262	189	5,105	トスペース/リリアンでマフラー/茶道/ヨット乗船会/キッズハロウィン/スケート/生き方フェスティバル/キッズ屋台 など
戸塚区	秋葉	782	496	24,735	370	9,757	ヨット体験/七夕祭り/ショップデー/恵方巻き作り/キッズ緑日/江の島遠足/いちご狩り/流しソーメン など
	上矢部	683	350	19,238	144	3,561	花見弁当/ゆうさんの紙芝居&マジックショー/スナックえんどう収穫/パソコン教室/スイカ割り大会/手話ダンス/ヒップホップダンス/防犯寸劇 など
	名瀬	514	343	16,372	192	6,713	バドミントン/サッカー/おやつ工房/キッズ映画館/キッズ工房/囲碁教室/ハロウィン/キュービクパズル/クリスマスランタン など
中区	本町	804	344	24,261	144	2,448	じっくり工作/3Dメガネ作り/防災運動会/アイスクリーム作り/将棋教室/工作教室 など
西区	宮谷	898	439	26,985	186	5,290	水墨画教室/生け花教室/ミュージックスクール/夏休みマジック教室/避難訓練/はまぎんこども宇宙科学館/ケアプラザ訪問 など
緑区	十日市場	625	310	21,525	72	1,816	工作教室/グラウンドゴルフ/ぬり絵/中学生とサッカーで遊ぼう/スライムづくり/迷路の日/ぬり絵カレンダー/落書き大会 など
	長津田	802	385	20,574	324	8,363	野球教室/ドッジボール/すいか割り/サッカーの日/親子製作/創作クラブ/カレーパーティ/バドミントン教室 など
南区	太田	266	177	10,280	161	3,242	動物園に行こう(ズーラシア)/バドミントン/みかん狩り/おやつ工房/ポーリング大会/折紙/ぬりえ/じゃんけん大会/正月遊び など
	永田	536	273	14,888	161	3,963	グランドゴルフ/ミニバスケット教室/折り紙教室/工作/読み聞かせ/国旗制作/スイーツ工房/DVD鑑賞会/陶芸教室/たのしく体を動かそう/キッズ菜園 など
	南	503	228	11,965	181	2,966	壁面工作/紙粘土でベン立て/真夏のオービスコンサート/大道芸/ポップコーンシアター/ビデオ鑑賞/野球/わくわく実験 など
26か所計		14,565	7,656	443,137	4,971	111,422	

【平成 29 年度 放課後キッズクラブ運営法人再選定の結果(平成 20 年度開設 1 か所)】

区	キッズクラブ名	再選定検討会	再選定決定通知
金沢区	瀬ヶ崎小学校放課後キッズクラブ	9 / 5 (金)	10 / 16 (月)

事業名	放課後キッズクラブの拡充	
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての子どもたちに放課後の安心・安全な「遊びの場」を提供する。 ・増加する留守家庭児童のうち、必要とする児童に19時までの「生活の場」を提供する。 ・外郭団体として、市の施策推進の一助を担う。 	
実施内容	<p>・平成29年度新規開設(平成30年3月)の放課後キッズクラブ2か所の現場見学会に参加した。勘案の結果、うち1か所の運営法人に応募したが、選定されなかった。</p>	<p>【応募した放課後キッズクラブ】 二俣川小学校放課後キッズクラブ(旭区)</p>

D:その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

事業名	賛助会員及び一般寄附者の拡充 賛助会員制度を含む寄附金制度の充実		
日時/回数	通年		
対象	市民		
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・法人活動への関心、理解を促す。 ・青少年育成寄附金募集及び賛助会員の獲得。 ・自主財源率の引き上げ。(協約目標:寄附金170万円) 		
実施内容	<p>(1)賛助会員・寄附金の管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データベースの管理(入退会、更新、寄附状況等) ・協力者のユースレターへの掲載 <p>(2)賛助会員の募集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現会員の維持(ユースレターの発行と送付 等) ※4月に会員数の見直し(3年間入金がない会員の削除)を行った。 ・新規会員の募集(法人内における協力要請、HPによる募集、事業実施時に案内) ※新規申込なし、新規寄附者増 ・会員対象・募集事業の実施 3/11(日)「陶芸体験教室」 参加者:21人(定員20人) <p>(3)新春のつどい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1/24(水) 会場:ホテル横浜ガーデン 参加者:72人 ※当日寄附:5,600円 <p>(4)その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員の見直しとして、3年間入金がない方を対象に116件削除したが、会費収入は減とならなかった(支出費は若干抑えられた)。 ・法人パンフレットは、平成30年度上半期までに作成する。 		
事業名	寄附金拡充を目的とした収益事業 第57回 爆笑!濱っ子寄席 (収益事業)		
日時/回数	10/20(金)18時~21時	場所	関内ホール 大ホール
対象	賛助会員及び市民	参加者	708人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・法人事業について企業や連携団体等に対し協力、理解を促す ・賛助会員を中心とした市民に、法人事業を理解していただき寄附金を募る機会とする。 		
実施内容	<p>■ユース賛助会員及び市民を対象とした寄附金募集の一環として実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主催:よこはまユース、横浜中法人会 ・共催:こども青少年局、横浜青年会議所 【実行委員会】5/11(木)、7/27(木)、9/27(水)、2/22(木) 計4回 【チケット販売数】S席3,500円 355枚、A席2,500円 231枚、B席1,000円 66枚 計652枚(昨年度:715枚) 【入場者数】708人(昨年度:723人) 【広告等協賛数】広告協賛57件(昨年度:45件)、共催・後援協賛7団体 【出演者】柳家さん光、桂雀々、コント山口君と竹田君、柳家さん喬、三遊亭歌之介、柳家権太楼 【当日募金(寄附金額)】105,474円(内訳:募金箱 65,474円、手ぬぐい 40,000円) (昨年度:127,000円) 【収益(寄附金繰入額)】378,532円(昨年度:328,356円) 【後援】 横浜金沢みどりロータリークラブ/横浜港南台ロータリークラブ/横浜みなとみらいライオンズクラブ/横浜南ロータリークラブ 横浜ロータリークラブ 		
事業名	法人の広報・PR		
日時/回数	通年	媒体	法人情報紙/法人ホームページ
対象	会員、寄附者、市民等		
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・法人全体の広報戦略の一環としてWebを活用しさまざまな情報を発信する。 ・各施設や部門における事業をアピールし、参加者増加につなげる。 		
実施内容	<p>(1)よこはまユースレター(法人情報紙)の発行:発行回数3回(8月No19、12月No20、3月No21)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業や運営に関する情報等を周知し、賛助会員並びに寄附者・事業協力者への報告 ・法人の事業のPR(市内外関係機関) ・HPでの公開(公益法人の事業公告) 【体裁】A4版カラー両面、10,000部発行(8月号は12,000部) <p>(2)法人ホームページの維持・管理、WEB</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施事業等告知とレポート掲載(主に各課が行う進行状況や掲載文の確認、本部事業の掲載) ・横浜市に準じたウェブアクセシビリティ方針の策定と点検 ・法人情報の公開(予算決算・事業計画等/求人情報) ・HP運用管理/アクセス数の管理(トップページビジット数:350,741) ※昨年度275,059vt. ・法人活動情報の発信回数:月平均32回 ※昨年度35回 		

事業名	職員の人材育成
対象	法人職員
事業目的	・法人職員として身に付けるべき技能・力量形成に必要な研修を実施し、青少年支援や中間支援組織としての法人全体の實力を高めていく。
実施内容	階層別・役割別の研修の実施及び外部研修への派遣 (1)新採用研修(4月、随時) (2)専門研修等への派遣 ・青少年施設等職員(外部研修への派遣、育成C実施研修、研究会や学会等への派遣) ・総務課職員(公益法人運営研修、会計研修への派遣) ・管理職(市コンプライアンス研修、内閣府主催研修への派遣) ・キッズクラブ職員(市実施研修、法人研修への派遣) (3)労務・経理業務の安定的執行管理を目的としたOJT(相談・助言) (4)人権研修(事務局、青少年施設等職員、時給スタッフ含) 1/31(水)、2/1(木) 内容:「職場の中にある『人権』のヒント」

A:青少年活動を支援する事業 あ:施設の貸与

事業名	諸室及び物品の貸出		
日時/回数	通年	場所	横浜市青少年育成センター
対象	施設利用者、市民、青少年活動団体	利用数	3,408件
事業目的	(1)諸室及び物品等の貸出を通じ、青少年育成活動の拠点機能を充実することで、青少年育成活動を支援する。 (2)多くの人がより利用しやすい活動環境を整備し、施設の利用促進に取り組む。		
実施内容	<p>(1)諸室及び物品の貸出 ※稼働率:66.8%(4月～11月)、45.9%(12月～3月)、通年:62.1% ※28年度:74.3%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修室などの管理運営や活動に必要な備品や機材の貸出:日常的なモニタリングを通じて随時充実に取り組んだ。 ・プリントルームの運営および館外物品(着ぐるみ)の貸出を実施した。 ・快適な施設管理(修繕、清掃):必要に応じた修繕や清掃を日常的に実施した。 ・施設稼働率向上のための利用促進(広報、キャンペーン等):近隣区施設・公共施設等に訪問し、利用者への紹介を依頼した。 <p>(2)利用者サービスの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングの実施:利用報告書やヒアリングによって利用者の声を集めた。(アンケートは10月・2月実施)。 ・利用者サービス向上のためのスタッフ研修や会議の実施:毎月1回、職員・コーディネーター全員参加の会議実施。 ・団体活動支援:プリントルームの運営、ロッカーの貸出、コーヒーポットサービスを実施した。 (ロッカー:月額500円×75件、コーヒーポットサービス:4.5セット) ・HPや広報紙を活用した情報提供:馬車道通信の発行(毎月)、及び空室情報提供(全室:隔週更新)を実施した。 <p>(3)防犯、防災への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルの整備や環境整備は通年、避難訓練(6/16、2/16)を実施した。(年間2回) 		

A:青少年活動を支援する事業 え:相談、助言

事業名	相談・コーディネート		
日時/回数	通年	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年活動者・育成者または青少年、保護者等	利用数	40件
事業目的	・青少年育成や、ボランティア・市民活動等にかかる相談窓口として、「解決に向かってともに考える」姿勢を基本に、活動コーディネートや情報収集、スタッフ研修に取り組む。		
実施内容	<p>(1)相談窓口の開設(窓口・メール・FAX等により、一次窓口として青少年育成に関する相談を受けた)</p> <p>(2)青少年育成や市民活動等にかかるコーディネート(窓口・メール・FAX、他事業所等からの依頼により受付)</p> <p>(3)相談スタッフのケース会議【年12回】(全スタッフが参加)</p> <p>(4)相談内容の分析及び事例考察(H23年～29年の事例510件)</p>		
事業名	情報提供		
日時/回数	通年	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年活動者・育成者または青少年、保護者等		
事業目的	・青少年育成にかかわる活動や研修情報、関連図書やノウハウ集および団体情報等を収集・整理・発信し、地域の青少年育成活動を支援する。また、HP等を活用し気軽に情報に触れることができる環境を整備することで、青少年に関わる層の拡大を目指す。		
実施内容	<p>(1)情報コーナーの運営…団体等への訪問や、HP、新聞、書籍等による青少年活動の情報収集と整理。分野別のファイリングなど、施設を活用した情報提供と相談対応環境を整備した。</p> <p>(2)情報発信…ボランティア活動情報や施策動向、統計など青少年に関する情報を収集しHPで発信した。</p> <p>(3)調査・研究…青少年指導者の研修ニーズ調査。アンケートにて企画のための基礎データを収集した。</p>		

B:青少年を支える人材を育成する事業 い:講座、セミナー、育成

事業名	課題解決に結び付けることができる人材の育成と支援 ユースコーディネーターの養成研修		
日時/回数	3/1、8、15、22、29 毎木曜日 全5回	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年活動や地域活動に関わっている実践者	参加者	84人
事業目的	・青少年を取り巻く課題を正しく理解し、青少年に寄り添うことができるほか、必要に応じて専門機関や社会資源とつなぐ人材を養成することで、青少年が見守られ、育まれる地域社会づくりを推進する。		
実施内容	(1)連続講座 参加費:2,000円(部分参加は1回700円) 定員30人 ※毎回、講義+30分程度の事例検討を実施 ①「子ども・青少年の声を聴き支援機関につなぐ」 【講師】よこはまユース 守田 洋 ②「児童相談所の機能と地域の役割についてー児童虐待の早期発見・予防のためにー」 【講師】中央児童相談所 石神 光 ③「子どものサインを見逃さないためにーこどもの問題行動と被害の現状を知るー」 【講師】県警察本部少年相談・保護センター 樋渡 弥子 ④「生きづらさを抱える子ども青少年と共に生きるー傾聴によるこころの支援ー」 【講師】NPOアーモンドコミュニティネットワーク 水谷 裕子 ⑤振り返りの会(無料) (2)その他:研修ニーズ調査(過去講座参加者、青少年指導員、他)		
事業名	課題解決に結び付けることができる人材の育成と支援 ユースコーディネーター認定制度に向けた取組		
日時/回数	2/17(土)、18(日)10時~18時	場所	青少年交流・活動支援スペース(さくらリビング)
対象	青少年施設等青少年育成・支援関係の職員、ユースコーディネーター養成研修の修了者等	参加者	22人(うち法人職員3人)
事業目的	・地域での活動充実のための環境を整えるため、ユースコーディネーター養成講座認定制度に向けた準備を行う。 ・これまでの調査を踏まえ、認定研修を想定した、ある程度高度な専門的内容及び相応の参加費の研修を実施することで、認定及び研修のニーズがあるかを調査する。		
実施内容	認定研修を想定した内容として、昨年度調査した京都市ユースサービス協会主催の「ユースワーカー養成講習会」の内容を少し変更して実施した。グループワークのあり方を基本に、青少年・若者に関わる上での基礎となる概論・コミュニケーションを学んだ。 ■講習会 1日目:青少年・若者を支える仕事/ユースワーカーとしての自己理解/かかわりのセンスを磨く 2日目:ユースワーカーに求められるスキルⅠ(コミュニケーション) /ユースワーカーに求められるスキルⅡ(グループプロセス)/事例検討を通じた実践の省察 【講師】 水野篤夫氏・竹田明子氏(以上、京都市ユースサービス協会)、山本智也氏(大阪成蹊大学教授)、辻幸志氏(こうべユースネット)、松田考氏(さっぽろ青少年女性活動協会) ※その他、オブザーバーとして札幌・名古屋・京都から団体職員が参加・進行補助。 【参加費】 一般:5,000円、学生:3,500円		
事業名	人材のすそ野を広げるための講座・研修 青少年の居場所づくり講座		
日時/回数	9/26(水) / 4回	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年と関わりがある施設・活動等のスタッフ	参加者	14人(9/29(金) (1)「居場所と呼ばれる“場”のつくり方」参加者)
事業目的	・さまざまな「居場所づくり」の実践から学ぶことで、地域で青少年に関わる人材のレベルアップを図り、青少年が見守られ、育まれる地域社会づくりを推進する。		
実施内容	講義と実践見学により、活動や関わり方のヒントを得て、参加者が自分自身の関わり方を見つける講座を実施した。 (1)「居場所と呼ばれる“場”のつくり方」 9/29(金) (2)「子ども、旅人、地域、多世代多国籍の居場所」(見学先:CASACO) (3)「遊び心の共有~子どもの楽しい“場”のつくり方」(見学先:片倉うさぎ山プレイパーク) (4)「子ども・若者の居場所で大人ができること~居場所を感じる空間~」 【参加費】 (1)(4) 1,000円、(2)(3) 500円		

事業名	人材のすそ野を広げるための講座・研修 スキルアップ研修「広報・記録のためのデジカメ写真入門講座」		
日時/回数	6/15(木)	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年育成者、青少年活動に関心がある人	参加者	30人
事業目的	・活動がより充実できるよう、青少年育成に関わる知識やスキルを学ぶ講座・研修を実施する。 ※地域で青少年に関わる人材を増やすため、主に初任者を対象とした研修を実施。		
実施内容	デジタルカメラの特性と、広報や記録における効果的な写真の撮り方について学んだ。 (1)写真の持つ意味と重要性 (2)デジタルカメラの特徴 (3)撮影のコツ・アングル 【参加費】2,000円 【講師】大向 哲夫(写真家)		
事業名	人材のすそ野を広げるための講座・研修 スキルアップ研修「ユースワーカー基礎講習」		
日時/回数	6/22(木)、29(木)	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年育成者、青少年活動に関心がある人	参加者	59人
事業目的	・活動がより充実できるよう、青少年育成に関わる知識やスキルを学ぶ講座を実施する。		
実施内容	2日間に分け、子どもとの接し方について講義とロールプレイを通して学ぶ講座を実施した。 1日目「子どもの理解・支援のポイント」 子どもをどのように捉えているのか、また、子どもに対して必要な援助をどのようなものと自分が捉えているかを講義やワークを通して理解した。また、支援のポイントについて活動現場と家庭との違いや成長の発達段階を通して学んだ。 2日目「子どもの心の“声”をキャッチするには」 スキルトレーニングを通じて、子どもの気持ちの理解の仕方や効果的な態度、言葉かけなどを学んだ。 【参加費】1,000円 【講師】杉野 聖子(江戸川大学総合専門学校 専任教諭)		
事業名	人材のすそ野を広げるための講座・研修 スキルアップ研修「発達障がいのある子ども・青少年の理解と支援講座」		
日時/回数	7/13(木)、18(火) / 2回	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年育成者、青少年活動に関心がある人	参加者	108人
事業目的	・青少年育成活動に役立つ知識やスキルを学ぶ機会を提供することで青少年に関わる人材を拡充する。		
実施内容	発達障がいのある子ども・青少年に寄り添い、支えるために、数々の事例に接してきた専門家から、発達障がいの捉え方・特徴・支援のコツなどを学んだ。 (1)神経発達障がい群 (2)自閉症スペクトラム症などの特徴 (3)発達障がいから生じる二次障害 (4)性別違和 (5)本人たちの声 (6)支援にあたって 【参加費】1,000円 【講師】中本 テリー(臨床心理学博士)		
事業名	人材のすそ野を広げるための講座・研修 スキルアップ研修「コーチング入門」		
日時/回数	10/11(水)、18(水) / 2回	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年育成活動に関わる人	参加者	55人
事業目的	・青少年に対する支援・育成活動に携わる人がより充実した活動を実施できるよう、コミュニケーションスキルのひとつである「コーチング」の基礎を身につけ、指導スキルの充実を図る。 ・豊かな人間関係の構築方法としての「コーチング」を学ぶことで、青少年育成活動に対する関心を高め、講座参加者の活動参画を目指す。		
実施内容	対人コミュニケーションの手法である「コーチング」の技術を、座学・実践を通して学んだ。 座学:コーチング技術の基礎理論、コーチングの実施例 等 実践:ロールプレイによる参加者同士のコーチング、結果の検証 等 【参加費】3,000円 【講師】川本 正秀(共育コーチング研究会 代表)		

事業名 人材育成のためのネットワークの形成 よこはまユースゼミ			
日時/回数	8/4(金)、1/26(金)、2/15(木)、20(火)、3/6(火)	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年と関わりがある施設・活動等のスタッフ	参加者	47人
事業目的	・課題共有や意見交換などを行うネットワークづくりを推進し、参加者や青少年団体が、青少年活動に対する意欲の向上や活動のヒントを得られることを目的とする。		
実施内容	<p>第1回:発達障がい理解と支援「子どもとの接し方と親への声かけ」 【講師】中本 テリー(臨床心理学博士)</p> <p>第2回:みんなで考える①「小学生の子どもとの信頼関係を作る」 【講師】杉野 聖子(江戸川大学総合専門学校 専任教諭)</p> <p>第3回:居場所としてのこども食堂の今 【講師】米田 佐知子(子どもの未来サポートオフィス代表)</p> <p>第4回:みんなで考える②「小学生の子どもとの信頼関係を作る」 【講師】杉野 聖子(江戸川大学総合専門学校 専任教諭)</p> <p>第5回 :中高生との信頼関係をつくる～中高生の居場所に学ぶ 【講師】佐藤 真一郎(世田谷区 野毛青少年交流センター長)</p> <p>【参加費】500円</p>		
事業名 人材育成のためのネットワークの形成 団体連携事業「横浜・子ども青少年に関わる活動関係者の大交流会」			
日時/回数	2/25(日)	場所	青少年交流・活動支援スペース(さくらリビング)
対象	青少年活動や地域活動に関わっている実践者	参加者	67人
事業目的	・子ども・青少年に関わる活動関係者が、お互いの活動について知り合い、対話を深めることを通して、横浜市内の子ども・青少年支援の基盤となるネットワークの推進することを目的とする。		
実施内容	<p>実施の経緯 「青少年の地域活動拠点連絡会(H24)」、「青少年の居場所・地域活動拠点連絡会(H25)」の関係者が「横浜・子ども青少年に関わる活動関係者の大交流会」を開く会を平成26年に設立。以降、共催事業として実施。(今年度で4回目)</p> <p>青少年に関わる活動を行っている団体が集まり、活動紹介、課題共有や意見交換を行った。 【資料代】500円</p> <p>【当日スケジュール】 10:00～14:00 参加者による活動紹介タイム 14:00～16:00 交流タイム(テーマ別/フリー)</p> <p>【実行委員会】 6/15(木)、10/4(水)、11/16(木)、12/8(金)、1/11(木)、2/24(土) (6回 毎回19時～21時30分)</p>		
事業名 活動充実のための研修事業 ステップアップ研修			
日時/回数	10/25(水)19時～21時	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年活動や地域活動に関わっている人、スキルアップ研修等の修了生	参加者	16人
事業目的	・スキルアップ研修(コーチング入門講座)で得た学びをさらに深く学び、講座参加者のスキル習熟を目指す研修を実施し、より高度なスキルを持った青少年育成に関わる人材の育成を行う。		
実施内容	<p>コーチング入門講座(10月実施 全2回)で扱いきれなかったコーチングのスキルについて、講師の講義と参加者同士のロールプレイによって理解を深めるとともに、入門講座の内容を再度振り返ることで、実生活で活用できるスキルを身につけることができる講座を実施した。</p> <p>参加者を入門講座受講生、またはそれに相当する経験のある者に限定し、既習スキルの習熟・深化に特化した講座とした。</p> <p>【参加費】2,000円 【講師】川本 正秀(共育コーチング研究会 代表)</p>		

事業名	活動充実のための研修事業 専門研修「こどもの事故は予防できる！」		
日時/回数	3/9(金)、20(火) / 2回	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年活動や地域活動に関わっている実践者	参加者	27人
事業目的	・専門的な知識やスキルを提供し、活動の核として活躍する人材を養成する。 ・子ども・青少年に関わるスタッフとして必要な知識・技術を学ぶことで、青少年育成団体や施設での青少年育成活動を充実させる。		
実施内容	事故が起きないようにするための発生予防を学ぶ他、子ども自身が自分の命を自分で守る予防方法についても取り上げる。 第1回:講義「こどもの事故は予防できる!～傷害の発生を予防するためには～」 講師:稲坂 恵(日本セーフティプロモーション学会 理事) 第2回:実演講習「こどもの遊びと生活のリスクとハザード～プレイパークでのリスクとハザード研修から学ぶ～」 講師:橋本 ミチ子(特定非営利活動法人横浜にプレイパークを創ろうネットワーク 代表) 【参加費】各回1,000円		
事業名	青少年育成活動の担い手の養成 「ユースチャレンジ」		
日時/回数	8/17(木)、18(金) / 2回	場所	横浜市青少年育成センター
対象	高校～大学生世代の青少年	参加者	延べ50人
事業目的	・地域活動と青少年を結びつけ、青少年が地域活動に関心を持つきっかけを提供する。		
実施内容	地域活動や大人と関係し体験を共有することで、今後の社会参加のきっかけづくりをする機会として、団体連携事業「きずな★夏祭り～町内会の活動を体験しよう!～」に青少年の運営ボランティアを導入し、高校生から大学生世代の青少年が地域の大人と一緒に活動をした。 【きずな★夏祭り～町内会の活動を体験しよう!～事業内容】 (1)地域活動と青少年を結びつける事業として、横浜市民局、資源循環局と共催で実施した。 (2)体験コーナーは、射的、ヨーヨー釣り、かき氷、ごみ分別ゲーム、缶バッチづくり、手品コーナー【新規】、町内会についての紹介コーナーを展開した。 (3)事前申し込みの放課後キッズクラブ(2校53人)が「キッズボランティア」としてイベント運営に参加した。 (4)当日のイベント運営スタッフは「ユースチャレンジ(事業名:青少年育成活動の担い手の養成)」で募集した青少年ボランティアが担った。 【協働、連携】 横浜市町内会連合会、横浜市民局、横浜市資源循環局		

A:青少年活動を支援する事業 あ:施設の貸与

事業名		施設・設備貸出事業	
日時/回数	通年	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	20人以上の団体(青少年、青少年指導者・育成者、市民)	利用日数	278日
事業目的	・青少年の体験学習・集団活動を通じた青少年育成、及び青少年指導者・育成者の研修活動の支援を図る。		
実施内容	利用者への安全性、利便性を高めるため、利用団体の活動目的や特性を配慮し、利用者の要望に柔軟に対応した。 (1)プログラムの事前相談・コーディネート強化 事前打合せ会参加団体213団体・98校 (2)利便性を高める利用者サービスの向上 食堂・研修室1～3の無線LAN環境を整備、新規にスリッパ、歯ブラシ、ロウソクの販売を行い、販売物品の種類を充実させた。 (3)体験プログラム情報の発信 カヌー・いかだ作りの手順、フォトラリーのデータ、食育プログラムの成分表等を事前に提供した。		
事業名		利用促進事業	
日時/回数	通年	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	市民及び、施設利用者		
事業目的	・より多くの青少年や指導者に体験活動や研修の機会を提供するため、新規利用団体獲得をめざす。		
実施内容	(1)大学や企業等を対象とした広報活動の強化 大学対象:横浜市立大学体育会部活広報誌(4月発行)の広告原稿作成 企業:ハマふれんどニュースへの広告掲載 (2)学校宿泊体験活動利用の新規開拓 対象とする団体毎の目的に沿った活動モデルの周知。 ・中学校・高等学校の部活動や生徒会活動での利用を誘致するため、各研修室の具体的な使用事例や実際の利用団体が行なった活動事例を記載したちらしを作成し、市立及び県立高等学校に配布した。(75校) ・センター近隣の高等学校(私立も含む)を訪問し、担当教諭に営業活動を行った。(7校)		

A:青少年活動を支援する事業 お:調査、資料収集

事業名		体験プログラムの調査研究	
日時/回数	通年	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	市内寄り添い型支援施設運営団体		
事業目的	・多様化する青少年のニーズに合い、かつ効果的な体験プログラムの充実をめざし、体験プログラムの検証・改善を図る。		
実施内容	社会的課題になっている「困難を抱える青少年」に焦点をあて、効果的な体験プログラムの実施するための調査を行った。 ・市内寄り添い型支援施設運営団体へのヒアリング調査 ・ヒアリング内容をまとめた報告書の作成 ・調査結果にもとづいたプログラムの試行と検証		

B:青少年を支える人材を育成する事業 い:講座、セミナー、育成

事業名		青少年指導者育成者研修	
日時/回数	(1)4/30(日)11時～20時 (2)5/13(土)10時～15時	場所	横浜市野島青少年研修センター及び周辺
対象	18歳以上の青少年に関わる指導者・育成者	参加者	42人 (1)35人 (2)7人
事業目的	・青少年育成に関わる人材を育成するために、体験活動の知識や技術習得を目的とした講習会を実施する。		
実施内容	青少年指導者・育成者の活動支援を目的とした講習会を実施するとともに、情報提供や相談対応を行った。 (1)実践的な指導者・育成者対象講習会の実施 ・レクリエーション編「みんなでつくろう！キャンプファイヤー in のじま」 【参加費】2,000円 ・水辺の安全編「自然あそびのススメinのじま」 【参加費】2,000円 (2)指導者・育成者への情報提供、相談対応 【協働・連携】 YSR横浜市学校レクセミナー、山田 陽治		

事業名	ボランティアの養成		
日時/回数	通年 / 209回	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	高校生以上	参加者	580人 (1)554人 (2)26人
事業目的	・ボランティア活動機会の提供を通じて、青少年の体験活動を支える人材の育成、及び青少年に多世代のボランティアとの触れ合いを通じて、豊かな人間性を育む機会を作る。		
実施内容	<p>高校生年代からシニアまでの幅広い層に対するボランティア活動機会を提供し、活動を支援した。</p> <p>(1)事業や体験プログラムでのボランティアの受け入れと活動支援 体験プログラム(カヌー、野島カリー、陶芸、海苔づくり): 252人、防災キャンプ:1人、野島海岸の保全活動: 7人、自然体験キャンプ: 38人、文化体験教室:2人、不登校児童生徒の宿泊体験: 37人、障がいのある児童生徒の宿泊体験:58人、のじまオープンデー:18人、植栽:141人</p> <p>(2)施設ボランティア『のじボラ』の養成 ・活動説明会 4/23(日)、5/3(水)、6/11(日)、20(火) 全4回15人 ・活動研修会 5/13(土) 5人 ※指導者スキルアップ研修『自然あそびのススメ in のじま』に希望者が参加 ・活動ふりかえり会 12/17(日) 6人 のじボラが参加した事業のふりかえりにおける活動指導 【協働・連携】 NPO法人横浜金沢カヌークラブ、関東学院大学学生支援室、横浜市立大学ボランティア支援室、野島町内会、童謡の会帰帆、金沢区社会福祉協議会</p>		

C:青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 う:体験活動等

事業名	体験プログラムの提供		
日時/回数	通年 / 367回	場所	横浜市野島青少年研修センター及び周辺
対象	(1)2利用団体 (3)小学3年生以上とその保護者 (4)金沢区在住または在学の小学生～高校生、金沢区在住の未就学児とその保護者	利用数	25,065人
事業目的	より多くの青少年に多様な体験機会してもらえるよう、研修センター周辺の自然環境、及び厨房等の施設の特性を活かした体験プログラムや、近隣の団体との連携することで実現可能な体験プログラムを実施する。また防災への意識を高めることを目的とし、防災キャンプを実施する。		
実施内容	<p>学校の教育カリキュラムや利用者のニーズに応じた体験プログラムを開発・提供し、多くの青少年に体験機会を提供した。</p> <p>(1)施設特性を活かしたプログラムの開発と提供(食育プログラム、室内プログラム)</p> <p>○有料プログラム a.野島カリー:35回2,713人 b.250カレー:17回1,135人 c.野島の海苔を使ったおにぎり作り:2回87人 d.ちらし寿司作り:1回38人 e.干物作り:1回97人 f.もちつき:5回198人 g.海苔づくり:1回96人 h.のじたま:8回196人 i.手作りプラネタリウム:2回80人 j.ちりめんモンスターを探せ:12回626人 k.陶芸:2回30人 【講師・協力】(株)ハーマーズインターナショナル、金沢区海苔づくり実行委員会、須藤義明氏、童謡の会帰帆</p> <p>○無料プログラム a.キャンドルファイヤー:85回6,680人 b.レクリエーションゲーム:8回460人 ※その他:材料加工作業の請負先を開拓した。(火起こし、バードコール)</p> <p>(2)自然環境を活かしたプログラムの開発と提供</p> <p>○有料プログラム a.カヌー体験:13回909人 b.いかだ作り:20回1,722人 c.干潟観察:15回1,001人 d.カニ釣り:24回1,638人 e.ミニ水族館:9回645人 f.漁師体験:6回314人 g.ハゼ釣り:1回40人 h.火起こし:4回414人 i.ビーチグラス:7回285人 j.化石レプリカ:11回231人 k.バードコール:12回467人 【講師・協力】NPO法人横浜金沢カヌークラブ、早川厚一郎氏</p> <p>○無料プログラム a.フォトラリー:41回3,403人 b.ナイトウォーク:22回1,439人 ※新規プログラム開発に向けて協力者を募った。(天体望遠鏡を使った天体観測、バードウォッチング)</p> <p>(3)地域産業との連携事業の実施、企画調整 「プレミアム探検ツアー」9/9(土)9時～16時 参加者36人 【主催】(株)横浜シーサイドライン 【参加費】大人:2,000円、中学生以下1,600円 【内容】シーサイドライン車両基地見学、カヌー体験、カニ釣り 【講師】NPO法人横浜金沢カヌークラブ</p> <p>(4)防災キャンプ ○共催事業「kids&junior防災キャンプ」9/16(土)16時～17(日)9時 参加者49人 【主催】金沢区災害ボランティアネットワーク 【参加費】500円 【内容】避難所への持ち寄り物品発表会、炊飯袋での調理、防災紙芝居、段ボールを使った寝場所作り、防災かるた作り</p> <p>○協賛事業「おやこ防災DAYキャンプ」3/8(木)10時～13時 参加者36人 【主催】金沢区災害ボランティアネットワーク、てんでんこ金沢プロジェクト 【参加費】500円 【内容】非常食・非常時のトイレ・授乳スペース・新聞紙とボール紙を使った皿作り、東北地方太平洋沖地震時の液状化体験報告</p>		

事業名	市民活動団体と協働した体験プログラム		
日時/回数	通年	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	小中学生、一般、利用団体	件数	569人
事業目的	個人や親子で参加できる体験事業の実施や、仲間づくりや自分に挑戦するアドベンチャー体験を通して、学校や学年を越えた仲間との交流や仲間と協力することで、協調性や社会性を育む機会を提供する。		
実施内容	<p>青少年に安全かつ充実した体験機会を提供するため、市民活動団体と協働して体験教室及び宿泊キャンプを実施した。また、周辺地域の環境保全にも取り組んだ。</p> <p>(1)自然体験キャンプの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カヌー体験キャンプ 6/3(土)~4(日) 参加者39人、7/1(土)~2(日) 参加者39人 【内容】カヌー体験、フォトラリー、ナイトウォーク、食事作り 【参加費】4,000円 【講師・協力】NPO法人横浜金沢カヌークラブ 【共催】公益財団法人横浜市緑の協会 【ボランティア】延べ12人 ・のじまチャレンジキャンプ 9/30(土)10時30分~10/1(日)11時30分 参加者38人 【内容】カヌー体験、カレー・カートンドック作り・サンドアート体験 【参加費】4,000円 【講師・協力】NPO法人横浜金沢カヌークラブ、野島自然観察探見隊 【ボランティア】7人 ・1泊2日の秘密基地づくり 10/28(土)9時30分~29(日)11時30分 参加者24人 【内容】基地の設計図づくり、ダンボールや木材を使った基地づくり、オリジナルの旗づくり、作品の発表会 【参加費】5,000円 【講師】特定非営利活動法人YPCネットワーク 山尾 敬 【ボランティア】10人 <p>(2)自然体験・文化体験教室の実施(日帰り)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カヌー体験教室 5/27(土) 参加者21人、6/17(土) 参加者20人、8/26(土) 参加者17人 各9時~12時 【内容】パドリング等のカヌー講習、水上練習、野島水路内でのミニツーリング 【参加費】大人2,000円、18歳以下1,000円 【講師・協力】NPO法人横浜金沢カヌークラブ 【共催】公益財団法人横浜市緑の協会 ・シーカヤック教室 7/16(土) 参加者10人、8/5(土) 参加者9人、8/6(日) 参加者9人 各9時~16時 【内容】シーカヤックの構造や用具、操船法等に関する座学講習、基礎的な操船技術の実習、体験ツーリング 【参加費】6,500円 【講師・協力】NPO法人横浜金沢カヌークラブ ・陶芸教室 11/5(日)9時~11時 参加者5人 【内容】備前焼きのマグカップ作り 【参加費】1,200円 【講師】須藤 義明 ・クッキング教室「アレルギーフリーごはん」 2/10(土)9時30分~14時15分 参加者8人 【内容】卵・乳・小麦を使わない料理教室 【参加費】3,500円(2人1組) 【講師・協力】関東学院大学材料・表面工学研究所 角田 光淳、(株)関学サービス ・クッキング教室「おさかなクッキング」2/18(日)9時30分~14時15分 参加者14人 【内容】鯛やイワシ等魚を中心とした料理教室 【参加費】4,000円(2人1組) 【講師】長島 由佳 <p>(3)野島海岸の保全活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 7/22(土)、9/2(土)、9(土)、11/18(土)、2/17(土)参加者316人 各13時~14時30分 【内容】海浜清掃、中高生ボランティアへの自然保護に関する説明(講師:海をつくる会 坂本昭夫) 【主催】オールクリーン野島ビーチ実行委員会 【協力】野島町内会、乙船町内会、野島公園、金沢区社会福祉協議会他 		

事業名	困難を抱える青少年のための体験活動支援		
日時/回数	通年	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	(1)ハートフルスペースに通室している児童生徒 (2)横浜市立小中学校個別支援学級の児童・生徒 (3)経済的等困難を抱える青少年	参加者	367人
事業目的	宿泊による生活体験や集団活動の機会を提供することで、参加する不登校児童生徒・障がいのある児童生徒・経済的等困難を抱える青少年のコミュニケーション能力の向上や自信回復を図る。		
実施内容	<p>困難を抱える青少年がコミュニケーション能力の向上や自信回復を図れるよう、生活体験や集団活動の機会を提供した。</p> <p>(1)不登校児童生徒の宿泊体験の実施 「ハートフルスペース宿泊体験」 横浜市教育委員会のハートフルスペースに通う児童生徒を対象とした宿泊体験キャンプ 11/21(火)11時~22(水)11時 参加者122人 【内容】もちつき体験、レクリエーション、調理、キャンドルファイアー 他 【主催】横浜市教育委員会 【ボランティア】19人 【支援】ボランティア募集、体験プログラム企画・準備・指導 他</p> <p>(2)障がいのある児童生徒の宿泊体験の実施 「野島クリスマスキャンプ」 横浜市立小中学校個別支援学級に通う児童・生徒対象とした宿泊体験キャンプ 12/9(土)16時~10(日)12時30分 参加者87人 【内容】キャンドルファイアー・ティータイム・レクリエーション 他 【主催】野島クリスマスキャンプ実行委員会 【ボランティア】38人 【事前準備】実行委員会・事務局の業務(経理、後援申請報告、連絡調整、ボランティア募集、広報) 【事前活動】ボランティア事前研修・ふれあいの会 参加者・保護者・ボランティアが理解を深める日帰り事業 11/26(日)10時~15時 参加者39人</p> <p>(3)困難を抱える青少年を対象とした宿泊キャンプの実施 a.「わくわく生活キャンプ」 寄り添い支援事業に通う青少年を対象とした宿泊体験キャンプ 12/27(水)15時~28(木)11時30分 参加者56人 【内容】夕朝食作り・キャンドルファイアー・「星をみる会」星の解説と観測・旧伊藤博文金沢別邸見学 【事前準備】寄り添い支援事業運営団体に協力依頼と連絡調整、食事やレクリエーション等のプログラム企画</p> <p>b.研修センターの体験プログラムのサポート 10/15(日) ことぶき青少年広場デイキャンプ:参加者21人 11/4(土)~5(日) NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ「オルタボイスキャンプ」:参加者57人 2/1(木)~2(金) 横浜市青少年相談センター宿泊キャンプ:参加者18人</p> <p>c.中学校個別支援級が行う職業体験実習の受入 12/11(月)、12(火) 横浜市立西柴中学校個別支援学級:参加者4人 2/1(木)、2(金) 横浜市立西金沢学園個別支援学級:2人</p>		
事業名	地域交流事業		
日時/回数	通年	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	幼児から一般	参加者	823人
事業目的	研修センターの取組みの理解を深めてもらうとともに、青少年に対する理解を深める機会を作ることで、青少年を育む体制づくりをすすめることを目的とし、地域と顔の見える関係を構築する。		
実施内容	<p>施設の活動及び青少年に対する理解を深めてもらうため、近隣地域と交流を深めた。</p> <p>(1)地域住民と連携した文化活動教室の実施 陶芸教室 5/21(日)~23(火) 参加者33人 【内容】地域住民が企画・講師を行う陶芸教室 【主催】野島町内会 【講師】須藤義明氏 コグニサイズ体験講座 9/26、10/10、24、11/14、1/23、2/13、27、3/13、27各回火曜日10時~11時30分 参加者361人 【内容】国立長寿医療研究センターが開発した認知症予防を目的とするコグニサイズの教室を実施 【主催】金沢区役所</p> <p>(2)地域ネットワーク会議の開催 10/6(金)、1/19(金) 両日14時~15時 出席者延べ18人(野島・乙船町内会、野島公園) 【内容】防災地域活動の取り組みや連携についての情報交換、施設・公園への要望</p> <p>(3)地域との防災への取組み a.金沢区災害ボランティアネットワーク会議への参加 毎月1回定例会、事業準備会に参加 b.災害シミュレーションのボランティア受入 1/27(土)10時35分~11時10分 参加者5人 【内容】災害時を想定し、物資確認等ボランティア活動を提供 【主催】金沢区災害ボランティアネットワーク</p> <p>(4)のじまオープンデーの実施 2/25(日)13時~15時30分 参加者延べ406人 【内容】金沢区を中心とする近隣地域住民を対象に、体験プログラムの提供、センター内の施設見学</p>		

事業の公益性と収益事業について

公益法人認定法第 22 条第 1 項の規定に基づき、当法人の平成 29 年度事業報告書を行政庁へ提出するために定められた書式により、事業の公益性及び収益事業について報告する。

個別の事業内容について 公益目的事業について

事業番号	事業の内容	当該事業の事業比率	
公 1	すべての青少年が周囲の人々から見守られ、人のつながりの中で成長することができる社会を醸成するとともに、青少年にさまざまな体験機会を提供し、その成長を促す事業	97.3	%

〔1〕事業の概要について

A 青少年活動を支援する事業

A - I 青少年活動を支援するための青少年施設の貸出

この事業は、青少年育成活動を展開する安全で効果的な場を提供することで、青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。横浜市内で行われている青少年の居場所づくり、就労体験、社会体験、環境保全、国際交流、自然科学体験活動等を企画、実施するための指導者・育成者による打ち合わせや準備、実際の活動の場として施設を提供するとともに、学校や普段の生活の中では体験しにくいバンド活動、演劇、表現活動や集団での宿泊体験活動等の青少年の主体的な活動の場として利用できるよう、できる限り施設利用に関する規則等の制限を設けず広く青少年に提供するために、職員が情報提供や運営補助等の支援を行っています。

事業には、いくつかの種類がありますが、さまざまな活動の場を提供する同一事業です。事業の特色としては、青少年の指導者・育成者の活動拠点(育成センター)、青少年の主体的な活動拠点(交流・活動支援スペース)、青少年の集団宿泊体験活動拠点(研修センター)の機能を有機的に結びつけ、青少年及び青少年の育成を目的としているすべての個人・団体を対象に、活動の場として、施設を安全で効果的に利用していただくために、利用相談や事前打ち合わせ、情報提供を行うとともに、実際の活動中には安全の確保並びに運営補助を職員が行っています。また、施設料は青少年及び青少年の育成を目的としている個人・団体であるすべての人が活動の場として利用しやすい金額に設定しています。

なお、法人が実施するさまざまな青少年育成活動実施のため、横浜市が「横浜市青少年施設条例」により設置している指定管理施設(横浜市青少年育成センター、横浜市野島青少年研修センター)に加え、青少年の交流・活動支援事業の一環としての青少年の交流・活動支援スペースを、貸し出しています。

これら施設の特徴や利用案内に関しては、施設パンフレット及びホームページに概要を掲載し広く一般に周知しています。

事業の財源は、施設利用料、横浜市からの指定管理料及び補助金並びに一般寄附金で構成されています。

《事業内容(施設の開館日数・利用状況)》

■青少年育成センター

□開館日数：325日

□研修室・スタジオ：利用件数3,408件(44,258人)

□印刷室利用件数：410件

□利用促進事業

・「きずな★夏祭り～町内会祭りの裏がわをウォッチング!」：8/17、18、参加者823人

■青少年交流・活動支援スペース

- 開館日数：346日
- 利用状況：青少年24,517人（1日平均71人）、青少年以外33,061人（1日平均96人）、
総計57,578人（1日平均166人）
- フリースペース利用の青少年：11,196人
- 利用促進のための取組
 - ・交流、読書、学習の各スペースの運営、ロビーワークの実施
 - ・ツイッター等による広報、街頭ティッシュ配布、利用者ニーズ調査、小中校長会やPTA連絡協議会におけるPR等

■青少年研修センター

- 開館日数：359日
- 利用可能日：332日
- 利用日数：278日
- 宿泊：団体415件（21,438人）
- 日帰り：団体309件（13,309人）
- 合計：団体724件（34,747人）
- 利用促進事業
 - ・ホームページの整備：「利用手引き」のダウンロード、給食サービスや新規プログラム等利用者向上につながる情報の公開
 - ・横浜市立大学体育会部活広報紙及びハマふれんどニュースへの広告掲載
 - ・市立及び県立高校（75校）へ利用案内チラシ送付
 - ・近隣高校への訪問（7校）

A - II 青少年活動を支援するための相談・助言・コーディネート【相談事業】

この事業は、青少年と青少年を取り巻く大人がともに育つ環境を醸成することにより青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。横浜市内で行われている青少年の居場所づくり、就労体験、社会体験、環境保全、国際交流、自然科学体験活動等に係ることにより青少年自らが学び育つ機会を提供するために相談・助言・コーディネートの支援を行っています。

事業にはいくつかの種類がありますが、活動内容は同一であり「相談、助言」事業に分類されます。事業の特色としては、活動希望者の経験や希望を踏まえ、活動の内容紹介（活動実施）、活動の企画・運営に関する相談・助言及びボランティアを必要とする団体や施設に、要件を満たす活動希望者の紹介を行っています。これらの相談業務の対象は、青少年及び青少年の育成を目的としているすべての個人・団体を対象としています。

また、情報発信・受付・相談・助言すべての活動を職員により実施し、活動の実施を希望する個人・団体に対し、活動の実施に関する知識・ノウハウ等を提供することで、青少年の実施する活動を実りあるものにするために相談・助言を行っています。

これらの事業内容及び相談窓口に関しては、施設パンフレット及びホームページに概要を掲載し、広く一般に周知しています。

事業の財源は、横浜市からの指定管理料及び補助金並びに一般寄附金から構成されています。

《事業内容》

■青少年育成センター

- 青少年育成に関わる相談：相談件数40件（通年）
青少年育成活動などに関する問い合わせや相談、青少年に関する市民、青少年からの相談の「一次的窓口」として開設。
月1回のコーディネーター会議でケース検討、情報を共有。研修会を2回実施。
- ホームページ等を使った情報提供
掲示板などを通じて情報を発信。「講座・研修」「助成金」等の情報を提供。登録者に対する情報提供（メルマガ形式）。

■青少年交流・活動支援スペース

□相談支援事業

- ・日常的な相談支援：ロビーや受付での日常的な会話を通じた相談・傾聴件数：765件
- ・個別相談：家庭や学校生活のトラブル、アルバイトや就職など 個別相談件数：99件
- ・啓発事業：思春期パネル展「生物多様性」「子どもの人権」「デートDV」77人参加
保護者学習会「子どもたちの現状と地域ができること」20人参加

A - III 青少年活動を支援するための活動参加型の相談・コーディネート

この事業は、青少年と青少年を取り巻く大人がともに育つ環境を醸成することにより青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。横浜市内で行われている青少年の居場所づくり、就労体験、社会体験、環境保全、国際交流、自然科学体験活動等に係ることにより青少年自らが学び育つ機会を提供するため、横浜市内で実施されている活動を継続及び充実していくため職員が活動現場に出向き、活動を企画・実施する指導者・育成者に相談・助言・コーディネート の支援を行っています。

事業には、いくつかの種類がありますが、活動内容はすべて活動参加型で同一であり「相談、助言」事業に分類されます。事業の特色としては、活動組織の構成や規模、活動内容や希望に従い、必要とされる要件を満たすために、事務局業務の補助や活動プログラムの企画への相談・助言、ボランティア（人材）の紹介、人材育成や啓発のための講師の派遣、他の活動団体や機関等のコーディネート等多様な支援を行っています。

これらの業務の対象は、青少年及び青少年の育成を目的としているすべての個人・団体を対象としています。相談・助言業務は、青少年活動に精通した職員が実施し、活動の継続及び充実のための相談・助言を行うほか情報収集や情報共有を図るためのネットワークの構築やその実施内容を資料にまとめホームページに概要を掲載し、希望者に無料で配布しています。

事業の財源は、横浜市からの指定管理料及び補助金並びに一般寄附金から構成されています。

《事業内容》

■事業課

□知っておきたい！子ども・若者どこでも講座：60件

地域や学校、青少年育成に携わる市民・団体等が自ら企画・実施する「子ども・若者」をテーマとする講演会や研修会に無料で講師を派遣。

□青少年の居場所・地域活動支援事業

①地域の青少年の居場所の活動推進・支援（磯子区・神奈川区・緑区の地域活動支援）

法人のもつ居場所づくりのノウハウを提供し、活動を推進。活動支援回数 45回

②学校内での居場所づくり支援（横浜総合高校「ようこそカフェ」）：31回 6236人

□活動の相談・助言

①活動相談（相談、助言、活動プランニング）：相談 58件

②CSR活動の支援・推進：6件

■キッズ運営課

□放課後キッズクラブの安定的な運営に向けた相談・助言

- ・相談・助言：3団体6件、情報交換会3回、現場見学会2回、通信発行4回

都筑区内のはまっ子ふれあいスクールおよび地域立ち上げ型NPO法人が運営する放課後キッズクラブを対象に、放課後キッズクラブへの円滑な移行に向け、必要なノウハウの伝達や情報交換会を実施した。

□はまっ子・キッズ交流事業：6回、参加者延べ28人

- ・「放課後キッズクラブ」の転換に関して、はまっ子ふれあいスクールのスタッフがどんなことに戸惑いを感じているのかを探り、課題等を共有した。

□ノウハウ提供による活動支援：2/24、参加者（児童6人、保護者・スタッフ8人）

- ・地域や団体と連携した体験プログラムのノウハウ提供を行い、体験活動の幅を広げる。

■青少年育成センター

□青少年育成に関わる団体とのネットワーク形成（よこはまユースゼミ）：

全5回、参加者延べ47人

情報交換を通じて活動者が課題とする青少年に関するテーマについて知識を深め、活動の充実を図るとともに、ネットワークの形成をはかった。

A - IV 青少年育成に活用できる活動資源（NPOや企業CSR等の活動）の調査

この事業は、青少年育成活動に活用できる体験活動のリソースを調査し、青少年の育成活動を行っている団体及び小中高校に提供することで、青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。横浜市内で行われているNPOや企業のCSR活動等青少年育成活動や学校の体験学習が連携することで、青少年自らが学び育つ体験活動の領域拡大や活動機会を充実するため、職員が市内の活動を調査し資料を作成しています。

事業の特色としては、年度ごとに社会体験、文化活動、福祉活動、環境保全、国際交流等多様な活動領域の中から調査領域を今年度は福祉活動に定め、主に横浜市内に活動拠点を置くNPOや企業等の活動を調査し、その結果をホームページに掲載しています。また、体験活動の領域だけではなく体験活動に参加し難い課題のある青少年を対象とした体験プログラムの企画・実施に活用してもらえる情報やプログラム開発のための調査・研究に取組み、対象となる青少年の枠を拡大しました。成果がまとまり次第、モデルプログラムや報告書として無料で配布するとともに、ホームページで周知します。なお、提供した情報に関する相談は、青少年及び青少年育成を目的としているすべての個人・団体を対象とし、問い合わせには職員が対応しています。調査・研究業務は職員が主体となって行いますが、専門分野における団体の活動状況や内容等に関しては必要な専門団体等と一緒にを行っています。

事業の財源は、横浜市からの補助金及び指定管理料並びに一般寄附金から構成されています。

《事業内容》

■事業課

□調査・研究事業

- ・社会体験活動に関するアンケート調査の実施（インターネット調査）
- ・研究・活動報告事例集「YOKOHAMA EYE'S」発行：1,200部

■青少年研修センター

□体験プログラムの調査研究

- ・困難を抱える青少年に効果的な体験プログラムのニーズ調査・報告
- ・ニーズ調査結果に基づいたプログラムの試行と検証
- ・体験プログラム協力団体の開拓

B 青少年を支える人材を育成するための事業

B - I 青少年を支える人材を育成するための講座・研修

この事業は、青少年を支える人材を育成することで青少年と青少年を取り巻く大人がともに育つ環境を醸成し、青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。青少年及び青少年育成に関する知識や技能を習得することで、青少年育成への理解を深め青少年育成活動の普及を促進し、青少年自らが学び育つ機会を充実するための人材育成を行っています。

事業にはいくつかの種類がありますが、活動内容はすべて同一であり「講座、セミナー、育成」事業に分類されます。事業の特色としては、日々の青少年育成活動の実践を通じて収集した課題や習得した知識や経験等から職員が青少年育成活動に必要なテーマを検討し、年間プログラムを企画の上、ホームページ、チラシ、広報等を通じ広く一般に周知し、すべての人が参加可能な講座・研修を実施しています。講座・研修の参加費は無料、教材費や資料代は実費としており、参加しやすい設定にしています。

研修（講師等）は職員が行いますが、専門機関の支援が必要な場合は外部に依頼しています。

事業の財源は、横浜市からの補助金及び指定管理料並びに一般寄附金から構成されています。

《事業内容》

■事業課

□啓発事業

- ・子ども・若者エンパワメントセミナー：7/11、参加者 235 人
- ・事例研究会・勉強会の実施：11/24、2/16、2 回、参加者延べ 56 人
- ・横浜市子どもの学習・生活支援 4 事業支援者向け研修：3/10、89 人

■キッズ運営課

□放課後 3 事業スタッフ人材育成、研修の充実

- ・放課後事業“スタッフ力”アップ研修
 - ①「キケン」の芽の摘み取り方：2/9、16、参加者延べ 42 人
 - ②こどもの心を聴く：2/19、23、参加者延べ 78 人

■青少年育成センター

□青少年人材養成研修

- ・「青少年の居場所づくり講座」：9～10 月（全 4 回）、参加者延べ 45 人

□ユースコーディネーター養成研修

- ・「ユースコーディネーター養成研修」：3 月（全 5 回）、参加者延べ 84 人

□スキルアップ講座《5 講座》

- ・「ユースワーカー基礎講習」：6/22、29（全 2 回）参加者延べ 60 人
- ・「広報・記録のためのデジカメ入門講座」：6/15、参加者 30 人
- ・「発達障がいの子ども・青少年の理解と支援講座」：7/13、18、参加者 108 人
- ・「コーチング入門講座」：10/11、18（全 2 回）参加者延べ 53 人
- ・「コーチングステップアップ研修」：10/25、参加者 16 人

□青少年に関わる人材ネットワークの拡充と既存ネットワークの強化

- ・「横浜子ども・青少年に関わる活動関係者の大交流会」：2/25、参加者 67 人

□専門研修

- ・「こどもの事故は予防できる」：3/9、3/20、参加者延べ 27 人

■青少年交流・活動支援スペース

□青少年サポーター育成事業

青少年が活動しやすい環境を作るため、職員と青少年とをつなぐ、大学生以上の青年ボランティアスタッフ及び地域シニアボランティアを育成しました。

- ・活動時期：通年
- ・延べ活動者数：214 人

■青少年研修センター

□青少年指導者育成者研修

- ・レクリエーション講習：4/30、参加者 35 人
- ・水辺の安全講習：5/13、参加者 7 人
- ・指導者・育成者への情報提供、相談支援

□ボランティアの養成

- ・事業や体験プログラムでのボランティアの受け入れと支援：12 事業、活動人数延べ 554 人
- ・施設ボランティアの養成：26 人

C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業

C - I すべての青少年を育むための多様な体験事業

この事業は、青少年が学校や家庭では体験しにくい多様な体験活動に参加することで、青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。青少年が体験を通じ自ら感じ考えることで学び育つことができる就労体験、社会体験、環境保全、国際交流、自然科学体験、宿泊体験等の集団活動体験機会を提供するための体験事業を企画・実施しています。

事業にはいくつかの種類がありますが、活動内容は同一であり「体験活動」事業に分類されます。事業の特色としては、集団で協力して目標を達成していく過程で青少年が社会性や協調性を育み自ら成長していくことができるよう、集団や個人の特性に応じて活動領域や手法を変え、すべての青少年を対象として職員が企画した体験活動を、ホームページ、事業チラシ、広報等を通じて広く周知し実施しています。実施場所は、横浜市内の公営の青少年施設、野外活動施設等を

中心に活用し、参加費は無料で、教材費や施設利用料（宿泊費等）を実費としており、青少年が参加しやすい設定にしています。

事業の財源は、横浜市からの指定管理料、委託料及び補助金並びに一般寄附金で構成されています。

《事業内容》

■事業課

□自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供

- ・団体との連携事業：①開港祭体験ブースの出店 6/1～2、参加者延べ 1,200 人
②高校生三陸漁業体験 7/27～30、11 人 ③子どもの弁当コンクール
④高校生水源林ボランティア：8/1、77 人
- ・道志村児童受入れ事業：10/5～6（1泊2日）、参加者 17 人
- ・教育機関との連携事業（市立高校と連携した科学体験教室）：全 3 回、参加者延べ 118 人

□寄り添い型支援事業「かもん未来塾」の運営

毎週月～金曜日の 11 時～19 時、火・木曜日の 11 時～21 時、登録数：15 人

■交流・活動支援スペース

□青少年の交流・体験事業

- ・交流促進事業：①英語で英会話交流会：4 回 7 人 ②さくりビカフェ（アクセサリーづくり体験、バリスタカフェ、アニメ交流会、書道カフェ、みんなで鍋パ）：12 回 133 人
- ・青少年チャレンジ事業：①英検チャレンジ事業：13 回 104 人 ②バンドレベルアップ講座：6 回 12 人 ③書道教室：1 回 6 人
- ・青少年ボランティア事業：
①中高生サマーアクト：27 人、②地域ボランティア活動（街案内）：12 回 28 人、
③青少年ボランティア活動（マジック、漫才、キッズクラブ他）：13 回 40 人、
④地域清掃ボランティア活動：13 回 66 人

□社会参加プログラム

・社会体験・就労体験活動

- ①社会見学ツアー：1 回 5 人、②社会教育実習の受入：8 人
③若者インターンシップ事業：4 回 13 人

・若者コミュニティー事業

- ①和食文化プログラム：10 人 ②カタン大会：7 人 ③ワイン講座：20 人

・青少年委員会の運営：8 回 31 人

□困難を抱える青少年の活動支援事業

- ・さくらリビング勉強会：118 人 毎週火曜日 16 時～19 時
- ・青少年支援団体の活動支援：22 回 支援者数：22 人

■研修センター

□体験プログラムの提供《39 事業》

- ・施設特性を活かしたプログラム（野島カリー他）：通年、参加者延べ 12,436 人
- ・自然環境を活かしたプログラム（いかだ作り他）：通年、参加者延べ 12,508 人
- ・地域産業と連携事業実施に向けた企画調整：
9/9「シーサイドライン連携『プレミアム探検ツアー』、参加者 36 人
- ・防災キャンプ：9/16～17、3/8、参加者延べ 85 人

□市民活動団体と協働した体験プログラムの実施《3 事業》

・自然体験キャンプ

- カヌー体験キャンプ：6/3～4、7/1～2、参加者延べ 78 人
- のじまチャレンジキャンプ：9/30～10/1、参加者 38 人
- 1泊2日の秘密基地づくり：10/28～9、参加者 24 人

・自然体験・文化体験教室《4 事業》

- カヌー体験教室：5/27、6/17、8/20、参加者延べ 58 人
- シーカヤック講習：7/16、8/5、8/6、参加者延べ 28 人
- 陶芸教室：11/5、参加者 5 人
- クッキング教室：2/10、2/18、参加者延べ 22 人

- ・野島海岸の保全活動
 - オールクリーン野島ビーチ：7～2月（5回）、参加者延べ316人
- 困難を抱える青少年のための体験活動支援《3事業》
 - ・ハートフルスペース宿泊体験：11/21～22、参加者延べ122人
 - ・野島クリスマスキャンプ：12/9～10、参加者87人、ボランティア38人
 - ・困難を抱える青少年を対象とした宿泊キャンプの実施
 - わくわく生活体験キャンプ：12/27～28、参加者56人
 - 研修センターの体験プログラムのサポート：10/15、11/4～5、2/1～2、参加者延べ96人
 - 中学校個別支援学級職業体験実習の受入れ：12/11、12/12、2/1、2/2、参加者6人
- 地域交流事業
 - ・地域住民と連携した文化活動教室
 - 陶芸教室：5/21～23、参加者33人
 - コグニサイズ体験講座：9～3月（全8回）、参加者延べ361人
 - ・地域連携会議：10/6、1/19、参加者延べ18人
 - ・地域との防災の取り組み
 - 金沢区災害ボランティアネットワーク会議：毎月1回
 - 災害シミュレーションのボランティア受入：1/27、参加者5人
 - のじまオープンデー：2/25、参加者延べ406人

C - II 小学生を育むための放課後の安全な遊び場と集団活動の場を提供する事業【放課後児童育成】

この事業は、小学生に放課後の安全な遊び場と集団活動の場を提供することにより、青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。現在、放課後児童育成活動として、放課後キッズクラブを運営し、小学生が集団での遊びや体験活動を通じ、自ら学び育つ機会を提供するため、小学校に在籍するすべての児童を対象とした体験活動を行っています。

事業の特色としては、横浜市の放課後児童育成施策に基づき、学校では得られない体験機会の設定、プログラム内容の継続性、子どもたちの成長や発達に応じたプログラム、異年齢児の交流やリーダー養成への取り組み、子どもたちの「食べる力」の育み、土曜日に親子で過ごす機会の提供、大勢のボランティアの協力、市民や企業の協力を大切にする、という8つの視点を持った体験活動を職員が企画・実施しています。実施場所は学校施設及び近隣の公園並びに公営施設等で、日祝日を除く毎日活動を行っています。

活動の内容や案内などの資料を職員が毎月作成し、地域及び対象となる児童すべてに無料配布し、事業を広く周知しています。

活動への参加は無料、教材費や交通費等は実費としており、参加しやすい設定にしています。ただし、放課後から19時までの利用に関しては横浜市放課後キッズクラブ事業実施要綱に定められた利用料の負担があります。

当事業の財源は、夜間利用料及び横浜市からの補助金で構成されています。

《事業内容》

■キッズ運営課

- 26か所の放課後キッズクラブ運営：各キッズ月平均約1,420人、総計443,137人が利用。
 - 在籍児童の53.5%（26か所の平均値）が登録
 - 実施プログラム数：毎月各キッズ平均15.9回、年間総計4,971回（参加者延べ111,422人）
- 会議・スタッフ研修等
 - ・評議会：キッズ毎に年2回開催（計52回）
 - ・保護者会：キッズ毎に年2～3回程度開催（計54回）
 - ・主任会議、指導員会議：13回
 - ・スタッフ研修：10回
- 近隣の放課後事業所等との交流プログラムの実施：9校、12回
- 高校生インターンシップの受け入れ：2校、6人

《各キッズクラブ概要》

■すすき野小学校キッズクラブ（青葉区）

- 在籍人数：171人
- 登録人数：81人
- 延べ参加児童数：5,772人
- プログラム実施数：214回
- プログラム参加人数：2,777人
- 主なプログラム：凧づくり、キッズ菜園、プラバン、木の枝教室 など

■和泉小学校キッズクラブ（泉区）

- 在籍人数：345人
- 登録人数：175人
- 延べ参加児童数：11,840人
- プログラム実施数：64回
- プログラム参加人数：1,540人
- 主なプログラム：防火・防災訓練、かるた大会、手芸教室、科学工作など

■笹野台小学校キッズクラブ（旭区）

- 在籍人数：612人
- 登録人数：359人
- 延べ参加児童数：20,190人
- プログラム実施数：287回
- プログラム参加人数：5,778人
- 主なプログラム：スライムづくり、編み物教室、スポーツチャンバラ、ミサंगा など

■岡村小学校キッズクラブ（磯子区）

- 在籍人数：386人
- 登録人数：223人
- 延べ参加児童数：12,987人
- プログラム実施数：191回
- プログラム参加人数：3,552人
- 主なプログラム：キッズ夏まつり、お正月遊び、ドッジボール大会、クリスマス会 など

■浦島小学校キッズクラブ（神奈川区）

- 在籍人数：498人
- 登録人数：284人
- 延べ参加児童数：18,874人
- プログラム実施数：158回
- プログラム参加人数：3,425人
- 主なプログラム：将棋オセロ、3B体操、ハンドベル、ハロウィン、アイススケート など

■瀬ヶ崎小学校キッズクラブ（金沢区）

- 在籍人数：376人
- 登録人数：192人
- 延べ参加児童数：9,890人
- プログラム実施数：145回
- プログラム参加人数：1,808人
- 主なプログラム：おばけちゃんフェス、クラフト週間、水鉄砲合戦、瀬ヶ崎探検隊 など

■能見台小学校キッズクラブ（金沢区）

- 在籍人数：439人
- 登録人数：235人
- 延べ参加児童数：11,820人
- プログラム実施数：186回
- プログラム参加人数：2,731人
- 主なプログラム：サッカー教室、うつし絵の日、うちわ作り、ワイヤー工作 など

- 港南台第三小学校キッズクラブ（港南区）
 - 在籍人数：293 人
 - 登録人数：188 人
 - 延べ参加児童数：14,034 人
 - プログラム実施数：258 回
 - プログラム参加人数：4,727 人
 - 主なプログラム：きずな夏祭り、フラダンス教室、囲碁将棋、スケート教室 など
- 日吉南小学校キッズクラブ（港北区）
 - 在籍人数：839 人
 - 登録人数：421 人
 - 延べ参加児童数：24,174 人
 - プログラム実施数：114 回
 - プログラム参加人数：3,520 人
 - 主なプログラム：ドッジボール、絵画教室、壁面装飾、地域交流カレンダーづくり など
- 飯島小学校キッズクラブ（栄区）
 - 在籍人数：569 人
 - 登録人数：310 人
 - 延べ参加児童数：16,720 人
 - プログラム実施数：343 回
 - プログラム参加人数：4,301 人
 - 主なプログラム：豆まき、企画工作、門松作り、ハンドベル、アイロンビーズ など
- 桜井小学校キッズクラブ（栄区）
 - 在籍人数：354 人
 - 登録人数：214 人
 - 延べ参加児童数：11,917 人
 - プログラム実施数：106 回
 - プログラム参加人数：2,466 人
 - 主なプログラム：プラバン、茶道教室、野島キャンプ、生チョコ作り、映画を見よう など
- 瀬谷さくら小学校キッズクラブ（瀬谷区）
 - 在籍人数：430 人
 - 登録人数：202 人
 - 延べ参加児童数：10,091 人
 - プログラム実施数：128 回
 - プログラム参加人数：3,687 人
 - 主なプログラム：オリジナル紙飛行機大会、キッズシアター、下瀬谷鍋を食べよう など
- 南瀬谷小学校キッズクラブ（瀬谷区）
 - 在籍人数：821 人
 - 登録人数：303 人
 - 延べ参加児童数：16,357 人
 - プログラム実施数：123 回
 - プログラム参加人数：5,889 人
 - 主なプログラム：わくわく縁日、下瀬谷消防署に行こう、Tシャツ藍染、豆まき など
- 折本小学校キッズクラブ（都筑区）
 - 在籍人数：772 人
 - 登録人数：405 人
 - 延べ参加児童数：26,122 人
 - プログラム実施数：248 回
 - プログラム参加人数：3,958 人
 - 主なプログラム：防災センター、和太鼓体験、学童ハマっこキッズ合同作品展 など

■上寺尾小学校キッズクラブ（鶴見区）

- 在籍人数：558 人
- 登録人数：336 人
- 延べ参加児童数：21,264 人
- プログラム実施数：282 回
- プログラム参加人数：8,039 人
- 主なプログラム：フラダンス、ビーズ教室、アイススケート教室、習字 など

■寺尾小学校キッズクラブ（鶴見区）

- 在籍人数：689 人
- 登録人数：383 人
- 延べ参加児童数：20,262 人
- プログラム実施数：189 回
- プログラム参加人数：5,105 人
- 主なプログラム：トスペース、リリアンでマフラー、茶道、ヨット乗船会 など

■秋葉小学校キッズクラブ（戸塚区）

- 在籍人数：782 人
- 登録人数：496 人
- 延べ参加児童数：24,735 人
- プログラム実施数：370 回
- プログラム参加人数：9,757 人
- 主なプログラム：ヨット体験、七夕祭り、恵方巻作り、江の島遠足、流しソーメン など

■上矢部小学校キッズクラブ（戸塚区）

- 在籍人数：683 人
- 登録人数：350 人
- 延べ参加児童数：19,238 人
- プログラム実施数：144 回
- プログラム参加人数：3,561 人
- 主なプログラム：花見弁当、スイカ割り大会、パソコン教室、防犯寸劇 など

■名瀬小学校キッズクラブ（戸塚区）

- 在籍人数：514 人
- 登録人数：343 人
- 延べ参加児童数：16,372 人
- プログラム実施数：192 回
- プログラム参加人数：6,713 人
- 主なプログラム：バドミントン、おやつ工房、囲碁教室、クリスマスランタン など

■本町小学校キッズクラブ（中区）

- 在籍人数：804 人
- 登録人数：344 人
- 延べ参加児童数：24,261 人
- プログラム実施数：144 回
- プログラム参加人数：2,448 人
- 主なプログラム：じっくり工作、3Dメガネ作り、防災運動会、アイスクリーム作り など

■宮谷小学校キッズクラブ（西区）

- 在籍人数：898 人
- 登録人数：439 人
- 延べ参加児童数：26,985 人
- プログラム実施数：186 回
- プログラム参加人数：5,290 人
- 主なプログラム：水墨画教室、生け花教室、ケアプラザ訪問、ミュージックスクール など

■十日市場小学校（緑区）

- 在籍人数：625 人
- 登録人数：310 人
- 延べ参加児童数：21,525 人
- プログラム実施数：72 回
- プログラム参加人数：1,816 人
- 主なプログラム：工作教室、グラウンドゴルフ、中学生とサッカーで遊ぼう など

■長津田小学校キッズクラブ（緑区）

- 在籍人数：802 人
- 登録人数：385 人
- 延べ参加児童数：20,574 人
- プログラム実施数：324 回
- プログラム参加人数：8,363 人
- 主なプログラム：野球教室、サッカーの日、親子製作、カレーパーティー など

■太田小学校キッズクラブ（南区）

- 在籍人数：266 人
- 登録人数：177 人
- 延べ参加児童数：10,280 人
- プログラム実施数：161 回
- プログラム参加人数：3,242 人
- 主なプログラム：動物園に行こう、バドミントン、みかん狩り、正月遊び など

■永田小学校キッズクラブ（南区）

- 在籍人数：536 人
- 登録人数：273 人
- 延べ参加児童数：14,888 人
- プログラム実施数：161 回
- プログラム参加人数：3,963 人
- 主なプログラム：グラウンドゴルフ、ミニバスケット教室、折紙教室、工作 など

■南小学校キッズクラブ（南区）

- 在籍人数：503 人
- 登録人数：228 人
- 延べ参加児童数：11,965 人
- プログラム実施数：181 回
- プログラム参加人数：2,966 人
- 主なプログラム：壁面工作、真夏のオービスコンサート、大道芸、野球 など

〔2〕事業の公益性について

定款（法人の事業又は目的）上の根拠		第4条第1項第1号、第2号、第3号
事業の種類 （別表の号）	（本事業が、左欄に記載した事業の種類に該当すると考えられる理由を記載してください）	
7	この事業は、すべての青少年が周囲の人々から見守られ、人のつながりの中で成長していくことができる社会を醸成するとともに、青少年育成活動への相談・助言・コーディネート及び青少年育成活動のための情報収集、青少年や青少年育成活動を支える人材育成のための講座・研修、青少年に体験機会を提供するための事業を実施するものであり、さまざまな体験を通じ青少年が自ら学び育つ機会を提供することにより、未来を担う青少年の成長に寄与することを目的としているため、「児童又は青少年の健全な育成を目的とする事業」であると考えます。	
（本事業が不特定多数の者の利益の増進に寄与すると言える事実を記載してください。）		
チェックポイント事業区分		チェックポイントに該当する旨の説明
<p>（11）施設の貸与 区分ごとのチェックポイント</p> <p>《1》当該施設の貸与が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p>《2》公益目的での貸与は、公益目的以外の貸与より優先して先行予約を受け付けるなどの優遇をしているか。</p>		<p>A - I 青少年活動を支援するための青少年施設の貸出</p> <p>《1》この事業は、青少年の育成活動を展開する場の提供を行う事業です。青少年育成活動に精通した職員により実施される活動に対する安全の確保、活動の効果をより高めるための情報提供、活動の運営補助等の支援を行うことにより青少年と青少年を取り巻く大人がともに育つ環境を醸成することを目的として位置付け、ホームページにおいて施設ごとに専用ページを設置して施設の特徴や利用方法等を広く公開しています。</p> <p>《2》青少年及びその指導者・育成者が実施する青少年育成活動のための施設貸与は、一般の予約よりも優先されており、また利用料も優遇しています。その情報はホームページにより公開しています。</p>
<p>（5）相談、助言 区分ごとのチェックポイント</p> <p>《1》当該相談、助言が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p>《2》当該相談、助言を利用できる機会が一般に開かれているか。</p> <p>《3》当該相談、助言には専門家が適切に関与しているか。（例：助言者の資格要件を定めて公開している）</p>		<p>A - II 青少年活動を支援するための相談・助言・コーディネート【相談事業】</p> <p>《1》青少年と青少年を取り巻く大人がともに育つ環境を醸成することにより青少年の健全な育成を目的とした事業で、その内容はパンフレット、ホームページで広く一般に公開しています。</p> <p>《2》この事業はすべての人を対象としており、相談、助言の受付時間、申込方法等はパンフレット及びホームページにより公開され、利用できる機会は一般に開かれています。</p> <p>《3》相談・助言は青少年活動に精通した職員が行っており、常に新聞や関係機関情報誌等により情報収集を行っています。また、職員は横浜市青少年相談センターの専門研修、県リードアップセミナー、個人情報保護に関する研修、児童の人権に関する研修を受講し、この事業に必要な専門性を維持しています。</p>

<p>(5) 相談、助言 区分ごとのチェックポイント</p> <p>《1》当該相談、助言が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p>《2》当該相談、助言を利用できる機会が一般に開かれているか。</p> <p>《3》当該相談、助言には専門家が適切に関与しているか。(例：助言者の資格要件を定めて公開している)</p>	<p>A - III 青少年活動を支援するための活動参加型の相談・コーディネート</p> <p>《1》青少年と青少年を取り巻く大人がともに育つ環境を醸成することにより青少年の健全な育成を図るため、横浜市内で実施された青少年育成活動を継続及び充実していくための支援を目的としています。実施した内容を取りまとめた資料は希望者に無料配布し、また、ホームページに概要を掲載し公開しています。</p> <p>《2》この事業は横浜市内で実施されている活動に参加した人すべてを対象としており、パンフレット、ホームページ、窓口で案内しています。</p> <p>《3》相談・助言は青少年活動に精通した職員が行っており、常に新聞や関係機関情報誌等により情報収集を行っています。また、職員は市青少年相談センターの専門研修、県リードアップセミナー、個人情報保護に関する研修、児童の人権に関する研修を受講し、この事業に必要な専門性を維持しています。</p>
<p>(6) 調査、資料収集 区分ごとのチェックポイント</p> <p>《1》当該調査、資料収集が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p>《2》当該調査、資料収集の名称や結果を公表していなかったり、内容についての外部からの問合せに答えないというようなことはないか。</p> <p>《3》当該調査、資料収集に専門家が適切に関与しているか。</p> <p>《4》当該法人が外部に委託する場合、そのすべてを他者に行わせること(いわゆる丸投げ)はないか。</p>	<p>A - IV 青少年育成に活用できる活動資源(NPOや企業CSR等の活動)の調査</p> <p>《1》青少年育成活動を推進するために、青少年を対象とした体験活動のためのリソースとしてプログラムや人材、活動の場等を調査し、より効果的な活動を企画・実施するために有効な情報及び活動実施内容を提供することを目的とし、報告書及びホームページにて明らかにしています。</p> <p>《2》当該調査、資料収集の結果を「横浜ユースマップ」や「活動レポート」としてホームページに掲載しています。また、提供した情報の問合せ先をホームページに掲載し、問い合わせには職員が対応しています。</p> <p>《3》当該事業の企画・構成・運営に関する仕様書は職員が横浜市と協議の上作成し、調査業務は職員と調査業務に必要な専門性のある団体に委託しているため、専門家が適切に関与しています。</p> <p>《4》報告書作成に関する仕様は当法人が作成し、調査結果をもとに分析・とりまとめまで実施しているため、主たる事業は当法人が行っております。</p>

<p>(3) 講座、セミナー、育成 区分ごとのチェックポイント</p> <p>《1》当該講座、セミナー、育成（以下「講座等」）が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p>《2》当該講座等を受講する機会が、一般に開かれているか。</p> <p>《3》当該講座等及び専門的知識・技能等の確認行為（受講者が一定のレベルに達したかについて必要に応じて行う行為）に当たって、専門家が適切に関与しているか。</p> <p>《4》講師等に対して過大な報酬が支払われることになっていないか。</p>	<p>B - I 青少年を支える人材を育成するための講座・研修</p> <p>《1》この事業は、青少年及び青少年育成に関する知識の理解を深めることにより青少年育成活動の普及を促進することを目的に、青少年を取り巻くすべての人を対象に実施しており、ホームページにて明らかにしています。</p> <p>《2》講座ごとに、ホームページ、チラシ、横浜市広報に募集要項を掲載し、すべての人が参加可能であり、参加の機会が開かれています。</p> <p>《3》他の育成活動を実施する中で収集した課題等から、職員が青少年育成に必要なテーマを検討し、年間プログラムを決定しています。また、講師はテーマに応じて、職員及び専門機関の支援が必要な場合は外部に依頼しています。</p> <p>《4》講師の報酬は1,000円～70,000円の範囲と定められており、過大な報酬は支払っていません。</p>
<p>(4) 体験活動等 区分ごとのチェックポイント</p> <p>《1》当該体験活動等が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p>《2》公益目的として設定されたテーマを実現するためのプログラムになっているか。 （例：テーマで謳っている公益目的と異なり、業界団体の販売促進や共同宣伝になっていないか）</p> <p>《3》体験活動に専門家が適切に関与しているか。</p>	<p>C - I すべての青少年を育むための多様な体験事業</p> <p>《1》この事業は、青少年に多様な体験機会を提供することにより、青少年を健全に育成することを目的とした事業で、すべての青少年を対象に実施しており、ホームページ、事業チラシ、広報等で明らかにしています。</p> <p>《2》青少年が体験を通じて、自ら感じ考えることで学び育っていくことができる集団での活動体験を、横浜市内の自然環境や青少年施設、野外活動施設等を活用し実施しています。</p> <p>《3》体験活動の企画・実施は職員が行っており、専門機関の支援が必要な場合は外部に依頼し、実行委員会等を組織し活動を行っています。</p>
<p>(4) 体験活動等 区分ごとのチェックポイント</p> <p>《1》当該体験活動等が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p>《2》公益目的として設定されたテーマを実現するためのプログラムになっているか。 （例：テーマで謳っている公益目的と異なり、業界団体の販売促進や共同宣伝になっていないか）</p> <p>《3》体験活動に専門家が適切に関与しているか。</p>	<p>C - II 小学生を育むための放課後の安全な遊び場と集団活動の場を提供する事業 【放課後児童育成】</p> <p>《1》この事業は、小学生に放課後の安全な遊び場と集団活動の場を提供することにより、青少年を健全に育成することを目的とした事業で、小学校に在籍するすべての児童を対象に実施しており、活動内容や案内資料を毎月作成し、すべての児童及び地域に無料配布し、事業内容を明らかにしています。学校区に住むすべての人に周知とともに活動してもらうことで、地域の人が子どもを守り育てていくことができる環境の醸成もあわせて行っています。</p> <p>《2》横浜市の放課後児童育成施策に基づき体験活動を、学校施設及び近隣の公園並びに公営施設等で実施しています。</p> <p>《3》体験活動の企画・実施は職員が行っています。</p>

収益事業について

事業番号	事業の内容	定款（法人の事業又は目的）上の根拠
収 1	すべての青少年が周囲の人々から見守られ、人のつながりの中で成長することができる社会を醸成するとともに、青少年にさまざまな体験機会を提供し、その成長を促すという公益目的事業を達成するために実施する収益事業	第 4 条第 1 項第 4 号
事業の概要		
<p>1 爆笑！濱っ子寄席（寄附金募集事業）</p> <p>この事業は、すべての青少年が周囲の人々から見守られ、人のつながりの中で成長することができる社会を醸成するとともに、青少年にさまざまな体験機会を提供して、その成長を促すための事業として、広く市民に周知し、理解を深めることを目的に落語会を実施しています。具体的には関内ホールにて年 1 回の落語会を開催し、パンフレット等により青少年育成活動を紹介するとともに、その収益を一般寄附金として青少年育成活動（公益目的事業）の資金として活用しています。更に、横浜市内の企業の社会貢献活動の一環として、パンフレットに協賛広告（有料）を掲載しています。</p> <p>事業の内容については、青少年育成活動に理解のある各種企業の代表者による実行委員会形式により企画・運営並びに協賛企業探し、チケット販売までのすべてを職員とともに実施しています。</p> <p>また、出演者の交渉から演目までを、中心となる落語家の協力により、実行委員会と検討しながら進めています。</p> <p>なお、出演する落語家も青少年育成の趣旨に賛同いただき、チャリティーとして通常より低価格にて出演していただいています。チケット代金及び企業の協賛広告収入は、出演料、会場借上げ料、パンフレットやチケットの印刷代等として支出しています。</p> <p>■第 57 回爆笑！濱っ子寄席</p> <p><input type="checkbox"/>日時：10/20</p> <p><input type="checkbox"/>会場：関内ホール・大ホール</p> <p><input type="checkbox"/>入場者：708 人</p> <p><input type="checkbox"/>出演者：柳家さん光、桂雀々、コント山口君と竹田君、柳家さん喬、三遊亭歌之介、柳家権太楼</p> <p><input type="checkbox"/>実行委員会：全 4 回</p>		
本事業を反復継続して行うのに最低限必要となる許認可等について		
許認可等の名称	-	
根拠法令	-	
許認可等行政機関	-	
本事業の利益の額が 0 円以下である場合の理由又は今後の改善方策について		
「爆笑！濱っ子寄席」はチケット代金の一部を寄附金として公益目的事業に使用しているために利益は 0 円となっています。-		